

聖徒の道 1972 12





心の糧

第9代大管長

デビッド・O・マッケイ

「高き神に栄えあれ、地には平和を、人に親しみ」なんと簡潔な言葉であろうか。なんとその意義の深く広い言葉であろうか。クリスマスには主の降誕を祝う。主は次の使命を持って地に降りられた。すなわち、(1)神の栄光をたたえ、(2)地に平和を約束し、(3)全人類に神のみこころが向けられることを保証された。

もしこの世に生を受けるあらゆる人が、この3つの栄光ある理想を人生の指針とするならば、人生はなんと楽しく幸福なものとなることであろうか。

もしこの地に生を受けたすべての人間が、人生の指針としてこれら3つの理想を抱くならば、人生はいかに楽しく幸せなものとなるであろうか。これを目指して誰もが、純粋、正義、名誉、高德、真実——すべて完きに導くものを探求し、すべて不純なるもの、不名誉、下劣なることを拒むのである。もし誰もが人に対して心から親しみを示し、やさしい言葉をかけ、愛と献身にあふれた小さな行ないを示そうと努力するならば、世界の平和と人類の幸福とになんとすばらしい貢献をなすであろうか。

クリスマスは希望を新たにし、救い主が降誕された時に天使によって知らされた福音を人類の間に実現する時であり、そのために私たちの権能のすべてを尽くす決意を固めるのに最適の時である。真、善、美を追求して神の栄光をたたえよう。そして神が私たちに示された同じ思いを互いに働かせて地上に平和を確立するよう努めようではないか。

もくじ

今月の聖徒の道……………	529
キリストを祝うクリスマス……………	530
私は飢えていた……………	532
私は裸だった……………	534
聖徒と世の人々への勧告……………	
第10代大管長 ジョセフ・フイールド・スミス…	536
決断の時……………ハロルド・B・リー大管長…	538
神権者へのチャレンジ……………	
ボーン・J・フェザーストーン監督…	542
教会はあなたのために何をなすか……………	
ゴードン・B・ヒンクレー…	544
かわいい子供のプレゼント…メアリー・M・エレスワース…	548
光のお祭り……………ミリアム・バスキン…	549
小さなお友だちへ……………大管長会から…	550
冬の食糧を得るために……………	
メアリー・プラット・パリッシュ…	552
リコのクリスマス…バーバラ・ウィリアム・ニーランズ…	554
ジェニーのすてきなクリスマス……………	
シルビア・プロスト・ヤング…	557
最大の賜……………マーク・E・ピーターセン…	560
わかちあうクリスマス……………	562
忘れない、覚えているわ…マージョリー・B・テイラー…	564
マ リ ヤ……………メアリー・プラット・パリッシュ…	566
ある大学生の決心……………アーサー・R・バセット…	569
ローカルニュース……………	574

今月の表紙

画家ジェリー・ハーストンが描いた、救い主の生涯の中の重要な場面。

末日聖徒イエス・キリスト教会教会幹部

大 管 長 会

大管長

ハロルド・B・リー

第一副管長

N・エルドン・タナー

第二副管長

マリオン・G・ロムニー

大 祝 福 師

エルドレッド・G・スミス

十二使徒評議員会

スペンサー・W・キンボール

エズラ・タフト・ベンソン

マーク・E・ピーターセン

デルバート・L・スティブレー

リグランド・リチャーズ

ヒュー・B・ブラウン

ハワード・W・ハンター

ゴードン・B・ヒンクレー

トーマス・S・モンソン

ボイド・K・パッカー

マービン・J・アシュトン

ブルース・R・マッコンキー

十二使徒評議員会補助

アルマ・ソニ

エルレイ・L・クリスチャンセン

スターリング・W・シル

ヘスリー・D・テイラー

アルビン・R・ダイヤー

フランクリン・D・

リチャーズ

セオドア・M・バートン

バーナード・P・ブロックバンク

ジェームス・A・カリモア

マリオン・D・ハンクス

ジョセフ・アンダーソン

デビッド・B・ハイト

ウィリアム・H・ベネット

ジョン・H・バンデンバーク

ロバート・L・シンプソン

O・レスリー・ストーン

ジェームス・E・ファウスト

L・トム・ペリー

七十人最高評議員会

S・デルワース・ヤング

ミルトン・R・ハンター

A・セオドア・タトル

ポール・H・ダン

ハートマン・レクター・Jr.

ロレン・C・ダン

レックス・D・ピネガー

管 理 監 督 会

ビクター・L・ブラウン

H・バーク・ピーターソン

ボーン・J・

フェザーストーン

ステーキ部・伝道本部住所

東京ステーキ部 〒107 東京都港区北青山3の6の4
TEL (03-407-2465)

大阪ステーキ部 〒560 大阪府豊中市岡町北1の2の3
TEL (068-52-3723)

日本東伝道本部 〒063 札幌市中央区北2条西24の245
TEL (011-611-3697)

日本伝道本部 〒106 東京都港区南麻布5の8の10
TEL (03-442-7438)

日本中央伝道本部 〒657 神戸市灘区篠原本町4の6の28
TEL (078-88-2712-3)

日本西部伝道本部 〒810 福岡市中央区平尾浄水町46
TEL (092-52-6048)

今月の聖徒の道

クリスマスは祝う方法は、地球上の各文明によって様々です。南半球では暑い夏のさ中に祝われ、北半球では寒い冬に祝われますが、クリスマスの真の意義を理解すれば、これらの差異は取るに足りません。クリスマスの精神は、どこでも、主を愛し、この世への救い主の降誕という偉大な贈物に感謝する人々のいるところには存在するでしょう。

クリスマスは祝う文明の大部分で、贈物の交換が行なわれています。極めて粗末な贈物もあれば高価なものもあるでしょう。しかし私たちは忘れてはなりません。粗末な贈物であろうとも、それが愛情をもって与えられ受け取られるならば、それは価値の知れないものなのです。また逆に高価な贈物でも、習慣的に与えられたり感謝の念なく受け取られたりすれば、真の価値は全くないでしょう。

どのような状況の下でも、誰もが与えることができ、しかも年中を通して持続する確かな贈物があります。すなわち愛と奉仕がそれです。

父親が自己を捧げて、家庭に神権の祝福がもたらされるよう主に仕え、神権に栄光を与えるために努めることにまさる家族への偉大な贈物があるのでしょうか。家族へのよき導きにまさる偉大な贈物があるのでしょうか。

母親が夫を家族の長として助け、子供たちに福音を教えるにまさる偉大な贈物があるのでしょうか。

子供たちが両親やお互い同志を愛し、敬い、助けることにより、家庭を平和に導くこと以上に偉大な贈物があるのでしょうか。

家族や個人がよき模範を打ち立て、他の人々に福音を分かちあうにまさる偉大な贈物があるのでしょうか。これらはすべての人が与え得る価値知れない貴重な贈物なのです。

救い主なしのクリスマスはあり得ない。
初めてのクリスマスの夜、天使たちが歌った時に
その歌は救い主、ただ救い主のための歌であった。



ベツレヘムの幼児の誕生は非常に重大であったがゆえに、天軍がこぞって喜んだ。彼らは主の使命とその贖いの意味するところ、永遠の生命が何であるか、そして贖いと復活の背後にある深い理由を知っていたがために歌ったのであった。



私たちは、天使たちと同じ思い、すなわち、キリストが私たち神の子らの父であられる神の独り子であり、イエスは私たちを神のみまえに帰すためこの世に来たりたもうたという同じ思いを持たずに、クリスマスを本当に祝うことはできない。



神は毎年クリスマスの時節に神のみたまを世に付かわそうと計画しておられるので、私たち自身もこの祝日の意味をさらに深く知ろうと努めねばならない。

キリストを祝

ひとりのみどりごがわれわれのために生れた。ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は「霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる。そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、ダビデの位に座して、その国を治め、今より後、とこしえに公平と正義とをもってこれを立て、これを保たれる。(イザヤ9:6—7)

神の御子は私たちの先祖の地であるエルサレムのあたりで、マリヤから生れたもう。マリヤは神の能力に覆われ、聖霊のちからによって懐妊し、男の子すなわち神の御子である方を生むはずの処女であって、選ばれた貴い器である。この男の子は世の中へ出て、苦難とあらゆる誘惑である試みとを受けたもう。これは、この方が自分でその民の苦しみと病いとを引き受けると言いたもう言葉が成就するため

この聖なる日、それは聖いものである。しかし、この日は祝うべき日でもある。辞典には、「祝う」とは「ほめ、たたえ、記念する」と、定義されている。私たちはクリスマスの祝いの中で、これらのすべてを行なうことができる。

うクリスマス

ある。(アルマ7:10—11)

「頭をあげよ。元気を出せ。予言の成就する時は近づきたり。今夜そのしるし現わるべし。われはわが聖き予言者からの口を借りて言い伝えたるすべての事を必ず成就せしむることを世の人々に証明せんために明日世の中に来らん。(Ⅲニーファイ1:13)

ところが、……マリヤは月が満ちて、初子を産み布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。

……「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。」

「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。」(ルカ2:6, 7, 10, 11, 14)

私たちは心からキリストのみわざをほめたたえ、神が、その独り子を世につかわして民を救おうとされるまでにこの世を愛したもうたことをほめなくてはならない。そうする時に、キリストと御父のみ名をたたえることができるのである。

私たちは、最初のクリスマスの夕べの、ベツレヘムの幼な児の誕生を記念すべきである。主を愛するがゆえに、これらのことをみな行なうのである。



しかし、自分の内にキリストのみたまを持たずにこれらのことをどうして行なえるであろうか。主の戒めを守らずに、どうして主のみたまを持てるであろうか。



主の戒めを守るならば、私たちは自分と同様に隣り人を愛し、自分の望むことを他人に施し、憎しみと争いをなくし、迫害する者を許し、困っている孤児ややもめを見舞い、自分自身は世の汚れに染まらず



身を清く保たずにいられるであろうか。

このクリスマスの季節に、私たちは主をほめ、主をたたえ、主の誕生とそのみわざを記念する。すべての人々は感謝と熱意、私たちのためになされたイエスのみ業に対する新たな献身の祈りを謙遜に捧げることがをも忘れてはならない。



私は 飢えていた

それはクリスマスのことだった。ドノバンは必死だった。生まれてから一度も物乞いをしたことのなかった彼は、考えるだけで恥ずかしくつらいことだが、自分を殺して、高級クラブのドアに鍵をさし込んでいる正装の紳士に言葉をかけた。紳士と美しい婦人はゆかいそうに笑い興じていて、ドノバンの頼みが耳に入らなかった。ドノバンはもう一度話しかけなくてはならなかった。

「失礼ですが、私はおなかをすかせています。どうか私を助けて下さい。」

「何もないよ。」紳士はつつきんどんに言った。「この頃は町のどこにも乞食がいる。仕事をみつけて、自分で働いたらどうだ。」彼は背を向けてドアをあけにかかった。

ドノバンは顔をなぐられたかのように後ずさりし、よろけながら建物の陰に身を寄せた。この数週間というものの職を求めて町から町を歩きまわったことを言うこともできなかった。彼は恥ずかしさで顔を真っ赤にし、建物に倒れかかった。

「酔っぱらいめ！ お前のようなやつを取締る法律が必要だ。」男が怒りをあからさまにして言った。

しかし女性はドノバンの様子をしげしげと見、たしなめて言った。「あら、リチャード、クリスマスですよ。おなかをすかせているんでしょう。」彼女は宝石をちりばめた小型のバッグを開き、ドノバンにかけよって1ドルを手握らせた。「さあ、何か食べ物をお買いなさい。あなたの食べるものはクリスマスのパンだということを忘れないでね。」

「ありがとうございます。そうします。」

ドノバンは1ドルをしっかりと握って、数丁離れた安食堂に急いだ。

ドノバンは女性の笑みと言葉を思い出し「天使のようだ」と心に叫んだ。

彼はそのお金で何を買うかを考えた。上手に使えば今晚たっぷり食べて、あすの分も残る。クリスマスのパンは、たった今考えついたこの新しい場所で職探しをする間、もつだろう。そう考えると足がはずんだが、その時、その暗い戸口に震えながらうずくまっている老人をみつけた彼は、足をとめ声をかけた。「さあ、いらっしゃい、おじいさん。クリスマスのパンが今晚2人で食べられるよ。」

2人は食堂で、おいしい食べ物を一口一口味わって食べた。ドノバンは、客人がパンとパイを紙ナプキンに包んでいるのに気づいた。「ああ、あすのためにとっておくのかい。」ドノバンはほほえんだ。すると老人は言った、「いや、新聞売りのトミーは世話する人がだれもないから持って行ってやるのさ。」

「さあ、私のパイも持って行って。それからこのパンも。もう、おなかはいっぱいだから。」ドノバンは言った。

「クリスマスのパンだ」と彼は心に思った。

トミーはナプキンに包んだ食べ物をすぐにたிரげたが、パンくずは残して、わきで鳴いている小犬にやった。ドノバンはおどおどしている小犬を抱きあげ、しめった体をなでた。なでていると犬の首輪の下げ札に触れたので、見ると、札には住所が書いてあった。

「お前を迷子にして、きつとがっかりしている子がいるぞ。おいで、うちを捜してあげよう。」

町から遠かったが、ドノバンはその犬を抱いて、立派な家敷の戸口に立ち、ベルを鳴らした。メイドが彼を一目見て男を呼び、男は犬を抱きとって、彼を疑わしそうな目つきでみつめた。「あなたが犬を連れてきたのですね。礼金をお求めでしょう。まさか、犬が迷子になる前から、そんなことを考えていたわけではないでしょうな。」

「お礼なぞ、少しも考えませんでした。」ドノバンは抗議した。

「お礼を求めてなどいけません。新聞売りの子が町で見つけた迷子の犬を連れてきてあげただけです。」言葉がどっと出てドノバンの本心が表われたのだった。貧しげな服装の訪問者の気持を知って、男はとたんに態度を和らげ、あやまった。

「すみませんでした。あなたがそのような方だとはわかりませんでした。お礼を差しあげたいです。広告に出していたのです。お礼を受けとって下さい。」

彼は遠慮するドノバンに紙幣を手渡して言った。「急ですがあなたは職を捜しているのでは？ 私の農園で警備員が1人必要になったので、あなたのような正直な人をやとえたらと思います。」別れ際、彼はドノバンに名刺を渡し、暖かなほほえみを浮かべ、彼の手を握った。



私は 裸だった

若い男が思い切ったような様子で、町の通りを洋服屋めざして歩いていた。ポケットに突っこんだ彼の手は、くしゃくしゃの20ドル紙幣5枚をしっかりと握っていた。落としたりは決してできなかった。そのお金は伝道に出るための新しい背広とオーバーになるはずだった。伝道費用の残りもほとんどがそうだが、その100ドルは彼が自分で少しずつ苦勞してためてきたお金だった。そのお金をどう使うかよく計画し、予算をたてて、主につかえる2年間の生活がまかなわれるのだ。

彼は男が自分の前に立ちだかったのに驚いた。よけて通るところだったが、体格の細い男がにこやかに手を差し伸べるのが目に入った。男は、何年も前に死んだ父親の友人のアントン・バンオーデンだった。

バンオーデン兄弟はヘイル家に長年親切を尽くしていた。感謝祭の七面鳥、クリスマスの贈物、母親に時々数ドルを包んでくれたこともあった。

その彼は、青年の健康と最近の様子を尋ねた。マースデンは気乗りのしない逃げ腰の返事をする自分に気づいた。彼はバンオーデン兄弟に、経済的な援助を求めていると思われなくなかった。彼は兄弟の質問に答えてしお話をした。

「はい、伝道に出ようとしています。はい、召しを受けました。はい、すぐに出発です。」実際彼は今伝道本部にいて、出発の用意をしていた。いかにも、彼は伝道に必要な品物を買に行く途中だった。たまたま背広と





オーバーを買おうとしていたところだった。彼は、バンオーデン兄弟と向かい側の少し高い店に行っても、せいぜい2、3分かかるだけだと考えた。

ヘイル家の友人はマースデンと会えたのを喜んでいたふうだが、マースデンは窮屈な気持だった。彼はバンオーデン兄弟が簡素な家に貸間をしていることや、職も地味なことを知っていたので、彼の犠牲を受けたくなかった。寄り道することを断わりはしたが、バンオーデン兄弟はにこにこしながら、それでも誘った。

その店で、高価な背広とオーバーと帽子が選ばれた。マースデンは高すぎるし、必要ないからと辞退した。しかしバンオーデン兄弟は、スタンレー・ヘイルの息子は最上の物を持たなくてはだめだと、一歩も引かなかった。彼はそうすることを喜び、楽しんでいる様子だった。さんざん断わったあげくに、とうとうマースデンは心から感謝してそれを受けとることになった。

兄弟は言った。「お別れの前に、こうできることが私にとってどんなにうれしいことか、聞いてくれたまえ。

私は14の時にこの国に移民してきた。言葉は話せず、お金も仕事も友だちもなかった。こわかったが、この新しい立派な国で最善を尽くそうと決心した。だれかが私をスタンレー・ヘイルに紹介してくれた。人々が『彼はみなし児を収容している』と言っていた。その時私はどういうことかわからなかったが、あなたのお父さんの心はよくわかった。彼は私に仕事をみつけてくれた。毛布を持ってきて、自分の仕事場の長椅子に寝かせてくれた。私が自活できるようになるまで、食べ物を持ってきてくれた。

私はこの話をスタンレー・ヘイルの末っ子に話す時を、長い間待っていた。聖人のようなお父さんが何年も昔私のために水の上に投げて下さった小さなパンを、スタンレー・ヘイルの息子に返す時を、長いこと待っていた。きょうあなたのおかげで私はとても幸せな気持だ。喜びで涙がでる。」

水の上に投げたパンで隣人が養われ、必要な時に衣服となったその奇跡を思うと、マースデン・ヘイルの両方の目もうるんだ。

彼は心の中で、これまで知らずにいてきょう初めて知った父親の姿を神に感謝したのであった。

聖徒と世の人々への勧告

第10代大管長 ジョセフ・フィールディング・スミス

愛する兄弟姉妹。また再びこの末日聖徒イエス・キリスト教会総大会へ出席され、心から歓迎の意を表したい。

本大会中開かれる数々の集会は、厳粛でかつ神聖なものであり、共に集まって主を待ち望み、主のみたまを求め、また主に仕え、主の戒めを守るという望みを新たにすることがある。

ここに出席しているすべての人々、放送に聞きいているすべての人々、また大会のメッセージを目にするすべての人々が、述べられる偉大な真理と語りかける人々の口からもれる賢明な勧告の言葉に心を開くようにと祈っている。

教会のすべての大会は、互いに福音の教義を教えあい、天が開かれて私たちにもたらされた事柄が真実であって神聖なものであることを証し、私たちの生涯を十分に果たすためになすべき事柄を、主にあって共に勧告しあう時である。

私たちは主のしもべである。主から光と真理と啓示を受けている者である。主は主の真理を公言し、その律法に生きるよう我々を戒めておられる。それゆえ、主のみこころと思ひにかなひ、聖なるみたまに導かれるまま、聖徒と世の人々へ勧告と導きを与えるものである。

世の人々に私は申し上げたい。今日は末の日であると。この末の日に、苦しみと悲しみと荒廃が満ちていることを。さらにこの日に、サタンは不敬な人々の心に住みつき、悪が満ち満ちて時のしるしが示されていることを。

この世の悪をいやすのに、主イエスキリストの福音をおいてほかにはない。平和への望み、この世と霊的な繁栄への望み、また終局的に神の王国に住みたいという望みは、この回復された福音にのみ、またその福音を通じて

のみ見出されるものである。我々の誰もが携わることのできる仕事の中で、福音をのべ伝え、この地上に教会、すなわち神の王国を打ち建てることほど重要なものはないのである。

それゆえに、私たちはあらゆるところの天父の子供らが、キリストを信じ生ける予言者によって啓示されたままにキリストを受け入れ、この末日聖徒イエス・キリスト教会に加わるよう招請しているのである。悔い改めて、世の人々をお作りになった神を礼拝し、今日主の福音を伝えるためつかわされた人々の言葉を信じるよう、私たちは世の人々に呼びかけているのである。

すべての国の心の正直な人々に申し上げたい。主はあなたがたを愛しておられることを。神はあなたがたが福音の全き祝福を受けられるように望んでおられることを。神はいまや、あなた

がたがモルモン経を信じ、ジョセフ・スミスを予言者として受け入れ、神の地上の王国に入り来て、天国において永遠の生命の世継ぎとなるよう招いておられるのだと申し上げたい。

福音を受け入れた人々に申し上げたい。戒めを守るように。光のうちに歩むように。終りまで耐え忍ぶように。すべての誓約と責務に忠実であるように。そうすれば、主は、あなたが夢見ている最も好ましくものよりはるかにまさる祝福をお与えになるのである。いにしえの人は次のように言っている。「事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。これはすべて人の本分である」(伝道12:13)

イスラエルに属するすべての家族に申し上げたい。この世と永遠にわたって家族は最も大切な組織であること



を。この世における私たちの目的は、私たち自身のために永遠の家族単位を作りあげることであることを。あなたがたの家庭生活にとって、神殿での結び固めの祝福と、日の栄の結婚に関してなされる誓約を守ることほど大切なものはないと申し上げたい。

教会内の両親に申し上げたい。心から互いに相愛するように。道徳律を守り、福音に生きるように。子供らを光明と真理のうちにあって育むように。福音による救いの真理を教えるように。家庭をこの地上における天国にし主のみたまが宿るところとし、家族の一人一人に正義を尊ぶ心が培われるところとするように。

家族のきずなを強め守るよう主は望んでおられる。父親が家族の長として正しい場を占めるようにと私たちは願っている。母親が夫を支え励まし、子

供たちの光となるよう求めるものである。

ジョセフ・F・スミス大管長は言われた。「母親は家庭の幸福と国家の繁栄の基である。神は母親に関して男と女に非常に神聖な義務を負わせられた。この義務を無視する者は神の怒りを買う。」(「福音の教義」第2巻P.22) また、「立派な父親または母親になることは、立派な将軍や政治家になることよりも偉大である。」同P.19)

シオンの若人に申し上げたい。主が皆さんを祝福し、守りたもうようにと。あなた方が神の律法を学び、それに調和して生きるなら、このことはまさしく確かなことである。すべての信頼に応えられるように。父母を敬うように。愛と一致の気持をもって共に生活するように。適切な服装をするように。この世に打ち勝つように。世の関心に照準を合せているファッションや風俗に迷わされないように。

神殿で結婚し、喜びにあふれた正しい生活をするように。アルマの次の言葉を思い起こしてほしい。「罪悪は決して幸福を生じたことはない。」(アルマ41:10) また教会の未来と命運に対する私たちの望みと、正義が行なわれるか否かについての要因があなた方の手中にあることを銘記してほしい。

教会内で信任され責任ある地位に召されている人々に申し上げたい。

教会の標準聖典に見られるままに、平明かつ簡潔に福音をのべるように。今日再び新たに啓示された教義とその業の真実さを証するように。主イエス・キリストが言われた。「わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている。」(ルカ22:27) という言葉を覚え、誠心誠意神の栄光をあらわすためにすべてのことをなそうではないか。(教義と聖約82:19) 困っている

孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保とうではないか。(ヤコブ1:27)

さて、主が私たちに、目を傾け、知り、かつ行なってほしいと思っておられることが数多くある。私は、リー副管長やタナー副管長、十二使徒評議員、他の幹部を信頼しており、彼等がそれらのことについてさらにみたまの力を得、皆さんに勧告してくれるよう願っている。

最後に私は、この地上における主のみ業が真実であって神聖なものであることを、また、ジョセフ・スミスと同じ業に働く人々を通じ、啓示された教えが永遠の真理であることを心から証申し上げたい。

私は私の霊に対する聖霊の導きにより知っている。天父は生きておられ、無限にして永遠の贖いを果たされるため、その独り子をこの世におつかわしになられたことを。またこの末の日にあって、永遠の完き福音を回復されたことを私は知っている。

この地上において主のみ業がさらに勢いを増してゆくことを私は知っており、そのことを証申し上げたい。末日聖徒イエス・キリスト教会は存続するはずである。主のみ業は勝利を収める。この地上におけるいかなる勢力もすべての国々に真理が広められ、福音が宣べ伝えられるのを妨げることはできない。

主の思いやりと恵みに対し、またかくも豊かに私たちに注がれているあらゆる祝福に対し、主に感謝申し上げます。また私たちすべてが、神の御子の福音を通じ永遠に享受できる完全さにあずかる者となれるよう、イエス・キリストのみ名によって祈るものである。アーメン。





1972年4月9日 日曜日の説教

決 断 の 時

ハロルド・B・リー大管長

非常な緊張をはらんだここ数年間、あなたはいつも主御自身のこの勧告を心に留めていることであろう。「この故に今ある権力に服従し、統治すべき権能を持ちてすべての敵を脚下に踏みつくる者の統治する時の至るを待つべし。」また主はこのようなも教えておられる。「神の律法を守る者はその国の律法を破る要なければなり。」(教義と聖約58:22, 21)

私たちは、ルカの記録した救い主誕生の時の天使の言葉を読む。「……地の上では、み心になう人々に平和があるように。」(ルカ2:14)

この言葉の反対のように見えるが、救い主は次のように言われたと記されている。「地上に平和をもたらすために、わたしがきたと思うな。平和ではなく、つるぎを投げ込むためにきたのである。わたしがきたのは、人をその

父と……仲たがいさせるためである。そして家の者が、その人の敵となるであろう。」(マタイ10:34-36)

この一見相反する2つの言葉は、どのようにして一致させられるであろうか。

この神権時代の初期に与えられた啓示は、現在の地上のいわゆる相反した2大統治勢力について語っている。1つは「地より平和の取り去られる」悪魔の支配として述べられている。(教義と聖約1:35)

聖典中他の箇所にもあるが、黙示録には地上に人の住む以前、「天では戦いが起った」と書かれている。(黙示12:7)

前世で、神の霊の創造物である大志を抱いた息子たちの1人が、神聖な権能をもって地上を統治すべき神御自身をしりぞけてまでも、自分に全能の力

を与えるならば、各自の努力なしで全人類を救うと約束した。サタンとなったその息子と彼に従う者たち、およびその反対に救いの計画を示して人類に選択権を与え、栄光を神に帰するとする神の愛する御子および彼に従う者との間には、激しい対立が起きた。御子は御自身を「ほおふられた小羊」(黙示13:8)として捧げ、その贖いの犠牲により「すべての人類は、福音のおきてと儀式とを守ることにによりて救われ得る」ことを提案された。(信仰簡条第3条)

サタンとその軍勢は人の自由意志を滅ぼそうとしたために投げ落とされ、偽りの母となり、人をあざむき、盲目にし、神の永遠の計画の教えとみ言葉に聞き従わない人々をみなとりこにしようとした。

聖典の語る現在の地上のもう一方の

勢力は、「聖徒らを支配し、その真中にありてこれを統治」する主の統治である。(教義と聖約1:36)

今日、その行為から明らかのように自由に好きなことを行ない、何が律法であり規律であり、正義であり、悪であり、善であり、徳であるかを自分の気持ちで選ぶことを自由意志と呼び、その自由意志を要求する、間違っただけで導かれ、目を開かれていない人々の呼ぶ声を我々は常に聞く。

私が今神の啓示から引用した言葉を考えてみれば、それは恐るべき言葉である。瞬時考えるだけであなたは知ることができるであろう。人が自分の規則を作ることができ、自分以外の規則を何も知らないとしたならば、彼はあなたも、人類と世界を治めるすべての事柄の裁き手という立場において神の王座に登ろうとした、サタンの計画に共鳴しているのである。真理と偽り、正義の力と悪の力、サタンの支配と私たちの主、救い主イエス・キリストの旗のもとにある支配の間には、過去も未来も闘争がある。

自由意志の真の意味は、息子に告げたある父親の言葉にはっきり示されている。

「それであるから、人はみな現世に於て自由であり……。そして万人に為したもうメシヤの大いなる賢い仲裁(救い主の贖罪を意味する)によって自由と永遠の生命とを選ぶか、または…悪魔の束縛と力とに由って定まる束縛と死とを選ぶか、これは全く人間の自由である。」(Ⅱニーファイ2:27)

「……主なる神は随意に行なう自由を人間に許したもうた。しかし人間はもしもあれに誘われこれに誘われなければ、随意に選び行なうことはできな

いのである。」(Ⅱニーファイ2:16)

もし我々が真空状態で生活し、障害物乗り越えるための努力も苦しみもいらずに何でも得られるとしたらばどのようなであろうか。

尊敬する同僚の1人が、自分をみじめに感じ、意欲も責任感もなくしていた若い大学生を、どのようにして助けようとしたかを語ってくれた。私の友人はその青年に魅力ある提案をした。このような会話の中で彼は言った。

「君、私がこれ以後君の仕事の責任をみなとって、君のわずらいをなくしてあげよう。大学の授業料を払い、衣服を買い、車やガソリン代をあげる。結婚する時には心配しなくていい。私が相手を捜して家を買ってあげる。君が何の努力もしなくても、そのあとずっと家族を養ってあげよう。君はどう思うかい？」

青年はまじめな顔で一瞬考え込み、「あの、もしそうしたら、私は何のために生きるのでしょうか。」と返事した。

その時友人は答えた、「君、私がわかってほしかったのはそのことなんだよ。それが人生の目的なんだ。苦闘と自分生来の能力を行使することなしに喜びなどない。」

さて、神から与えられた自由意志、選択の自由の行使にあたり、どのようにしたら真理と偽りとを見きわめることができるであろうか。

有名な評論家が次のように書いている。「真理がこの宇宙の論理である。それは将来を決める道理であり、神のみこころである。人の作り出す何物もそれにとって代ることはない。」(フランク・クレイン)

他にも賢人がこう記している。「基

本的な真理に進展はない。我々はその意味を知ることや、適用方法において成長できるが、この偉大な原則は永遠に同じである。」(マービー・ハミルトン・ライト)¹

ピラトの面前での罪状認否の時、救い主は、自分の全使命は真理を証することであると述べられた。するとピラトは「真理とは何か」と尋ねた。

救い主がこの時質問に答えられたかどうかは記録されていない。しかし私たちの時代に主御自身が当時ピラトに答えられたであろう言葉を述べておられる。それを引用しよう。「真理とは事物の現在あるがまま、過去にありしまま、未来にあるがままの知識なり。およそこれよりも過ぎたるもの、及ばざるものは太初より偽り者なりしかの悪魔の霊気なり。」(教義と聖約93:24-25)

さて、ここで数分間、人が真理を探究する際に頼りとなる確実な事柄について話をしよう。

話したい第一のものは、聖典の中でキリストの光、真理のみたま、神のみたまなどとさまざまに言われ、本質においては、神のもとから出て人の理解を促す、神の影響力を意味するものである。(教義と聖約88:49参照)使徒ヨハネは、それを「すべての人を照すまことの光があつて、世にきた」と言った。(ヨハネ1:9)

教会の大管長はそれをさらにこう述べている。「この世に生まれてくる人で、神のみたまを受けていない人はいない。人の霊に悟りを与えるのは、この神のみたまである。……それぞれ光を受ける能力に応じて……人が……高度の英知を得るまで、このみたまは人に働きかけ続ける。」(ジョセフ・F・



この世に生れてくる人で神のみたまを受けていない人はいない

スミス「福音の数義」第1巻 P.80,
81)

聖典の言葉を知らない人々にとって
キリストの光は人の良心あるいは人の
魂に存在する神の声と説明できよう。

私が若い時代公職にあった時に、あ
る教会指導者から良い助言を受けた。
彼はこのように言った。「私たちがあ
なたに望むただ1つのことは、心に正
しいと感じるものに投票してほしいと
いうことです。政策のために投票する
よりも、むしろあなたが正しいと感じ
たことをして誤った方が何倍も望まし
いことです。」

私は、何に価値があるかというこの
助言の言葉を公の職務に携わる人々に
伝え、公職その他重い責任を持つ人々
に、祈りをもって深く思いはかり、主
から人生の問題解決の援助をいただく
ようにと強く勧めるものである。

「方便は一時、原則は永世」とある
人は言った。(ヘンリー・ウォード・
ビーチャー)²

さて、ではもう1つ確かなことをお
話しよう。

私たちは、どのにせ哲学に対しても
最大の武器はイエス・キリストの福音
の積極的な教えであることを、いつも
心に留めなくてはならない。

私たちは絶えず、神の王国の真の使
節として世に出て行くすべての人に、
代々を通じて最も有能な信仰の擁護者
の1人、使徒パウロの賢明な助言に従
うよう強く勧めている。パウロはコリ
ント人への言葉の中で、召しにおいて
彼のように力強くなるための勧告を述
べている。それが悪と闘う時の彼の秘
訣であった。

「兄弟たちよ。わたしもまた、あな
たがたの所に行った時、神のあかしを
宣べ伝えるのに、すぐれた言葉や知恵
を用いなかった。なぜなら、わたしは
イエス・キリスト、しかも十字架につ
けられたキリスト以外のことは、あな
たがたの間では何も知るまいと、決心
したからである。

それは、あなたがたの信仰が人の知
恵によらないで、神の力によるものと
なるためであった。」(Iコリント2：
1—2, 5)

どうすればつかまえられるように
泥棒ができるかを人に話して正直を教
えることはできないし、性活動のすべ
てを若者に話して純潔を教えることは
できないとよく言われてきた。

それと同様に、私たちは全能の神の
力によって真理を教えるのに、努力を
払わなくてはならない。これは靈感に
よる知恵である。それにより、私たち
は悪に満ちたサタンの教えに対抗する
最も強力な武器を持つことができる。

予言者ジョセフ・スミスは、当時教
会員をいかにして治めるかと尋ねられ
て、こう答えた。「彼らに正しい原則
を教えなさい。そうすれば彼らは自分
を治めるであろう。」

もし私たちが、イエス・キリストの
福音の原則を力強く教える代りに、正
義の敵の哲学をあまりに強調したなら
ば、その結果は単に論争をひき起こし
全世界における伝道の業の目的をくず
してしまいう過ぎない。

次に、第3番目の確かな事柄につい
てである。

公職に仕えている人々は、ある論争
に関して、よく組織されてはいるが騒
々しい少数派から要求が出ているもの
か、声は小さくても理由が正しく、正
義の原則と調和している多数派から出
ているものかをどうしても判断しなく
てはならない場合が、よくあることを
すぐに知る。私たちは常に、古代の賢
王の忠告を思い起こすとよい。「民の
大半が不正なことを求めるのは稀れで
あるが、その少数が不正なことを求め
るのは普通にある。故に汝らはよろ

しく民の賛成同意を得てまつりごとを行なうことを……」（モーサヤ29：26）

この賢い古代の王の忠告を、教会員や、世界各地の公僕への助言としなさい。自分の仕事や政治への関心を大きく持ち、活動しなさい。どの社会にあっても、原則や公僕の実選に關して、時代の情報に注意を払わず無関心であることは大きな危険である。

市民としての責任を果たす際心にとめなくてはならない第4のことは、神から靈感を受けた人々が勧めているように、私たちが治める人を、「公平と正義とを以て法律を行なう……吏員および長官」（教義と聖約134：3）として選ぶことである。

一言で言えば、私たちはただ「これは政策的に好都合か」と考えるのではなく「これは国民、社会にとって良いこと、正しいことか」と考える真に政治的らしい人を捜し求めなくてはならない。

政治についての私たちの宣言をいつも思い出しなさい。「われらは、王、大統領、統治者、長官に従うべきを信じ、また法律を守り、敬い、支うべきを信ず」（信仰簡条第12章）

あなたがどこにしようとも、どこに住もうとも、国の指導者のために祈りなさい。彼らもあなたの大事にするものをすべて持っていることを念頭において。再び主の戒めを繰り返そう。「……今ある権力に服従し、統治すべき権能を持ちてすべての敵を脚下に踏みつくる者の統治する時の至るを待つべし。」（教義と聖約58：22）

そして最後に、すべて確実なもの、きわみは、イエス・キリストの福音の中に与えられている神の永遠の計画で

ある。ここに、私たちは安全な道にしっかりと立つことのできる不滅の原則を持つのである。それらの永遠の原則によって、すぐさま真理と誤りとを見わけることができる。この神権時代初期の啓示で福音の教えが与えられたのは「彼ら誤りたらば明らかにさるるを得、知恵を求めたらば教えを授けらるるを得」のためであると言われている。（教義と聖約1：25-26）

私たちは福音の真理の光により、「善を行なえとすすめ、またキリストを信ぜよとすすめるものは……それが神から出たことは何の疑いもなく充分確に知ることができる。」（モロナイ7：16）

しかし同時に、宗教であっても、哲学、科学、政治であっても、「悪をせよと説きすすめ、またキリストを信ぜずこれを否定し神に事えるなど説きすすめるものは何でもみな悪魔から出た」と言うことは、何の疑いもなく充分確に知ることができる」ということも知っている。（モロナイ7：17）

祈ることを学び、聞く耳を養われて「あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。」人は、危機にあっているかにすばらしい平安を感じることであろうか。（イザヤ58：9）

第2次世界大戦の連合軍最高司令官アイゼンハワー元帥は、世界の歴史を変える重大な軍の決定に際し、へりくだって次のように言明した。「これは私が宗教について知ったことである。宗教は危機に際して決定を下さなくてはならない時、その決定をする勇氣をあなたに与え、結果をさらに力ある御方にゆだねるという確信を与えてくれる。神に対するこの信頼によってのみ

数々の責任を受けている人間は、平安を見いだすことができる。」

ここに、あなたがたはそれを持っている。高い地位にある指導者、実業界、政界、教会の指導者であるすべての人々よ、このことについて、人生を歩むその時々常に思い起こしなさい。神が天の座にいまし、もし私たちが神を求め、神を見いだすならば、世に關してすべてはよしとなることを。「神はわれわれひとりびとりから遠く離れておいでになるのではない。われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。……『われわれも、確かにその子孫である』。」（使徒17：27-28）

さて、私は心より低くへりくだってこれらの人生の指標が私にとっていかに大きな力となっているかという証を述べたい。私は自分の経験を通して、責任が重くなればなるほど、よりいっそう主に頼ることを学んだ。

私は、モーセが大いなる靈的経験をしたあとで言った言葉の意味を幾らか理解し始めた。モーセは、「われ知る人は物の数にもあらざるを。この事を嘗てわれ考えたこともなかりき」と言った。（モーセ1：10）

しかしまた、私は生涯の光と陰を通じて、神の聖なる力に助けられるならば、疑いは解けて確信に変わり、重荷は軽くなり、主に近づき、救い主がさらに確かになり、文字通りの再生が実現するという確信を得た。これらのすべてを主イエス・キリストのみ名によりへりくだって証申しあげる。アーメン。

1. マービー・ハミルトン・ライト (1845—1916) アメリカの評論、随筆家
2. ヘンリー・ウォード・ビーチャー (1813—1887) アメリカの牧師



神権者への

チャレンジ

管理監督会

ボーン・J・フェザーストン監督

偉大なイエス・キリスト教会の愛する兄弟姉妹の皆様。この偉大な機会にあって、私が、いかに自分を小さい者に思っているか、知っていただきたい。エド・ガードナーの話に、ちょっとおもしろいものがある。彼の妻は、耳が遠くいつも補聴器を使っていた。ある晩、2人で居間にいた時のことである。彼の妻は、うつむいて、編み物に興じ、彼は、新聞に目を通しながら妻のことを話していた。その時、彼が「ねえ、おまえ。私はおまえのことをとても誇りに思っているんだよ」と言うとき、彼女は顔をあげて、「あなた。私だって、あなたにあきがきてるんですよ」と言ったというのである。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の指示を受けて、リー副管長とタナー副管長が私に電話を下さった時、私は自分が耳にしていると思っている言葉が、実際に耳にしている言葉と同じだとは、とても思えなかったのである。

20年以上もの間、私は、大会の神権会には決まって4時頃足を運んできた。4時20分前くらいまで、家のテレ

ビで午後の部を見て、それから車でやってきて、息子や友人たちと外で待つ。そして神権会のために入口が開かれると中に入り、大会の開始まで、23時間、すわって待つのである。

そうしている間、私は心中、ただ1つの目的にのみ思いをはせてきた。使徒や予言者、また偉大な教会幹部の方々の話に耳を傾けると同時に、彼らの表情をしげしげと眺めてきたのである。そのたびに、私は、清浄な心、高潔さを見だし、また大いなる愛と聡明さを見だし、神権者たちに期待されるあらゆる優れた特性を見だし、神権者たちに見いだしたものを自分の心の奥深く刻み込むように決心して、家路についたものだった。

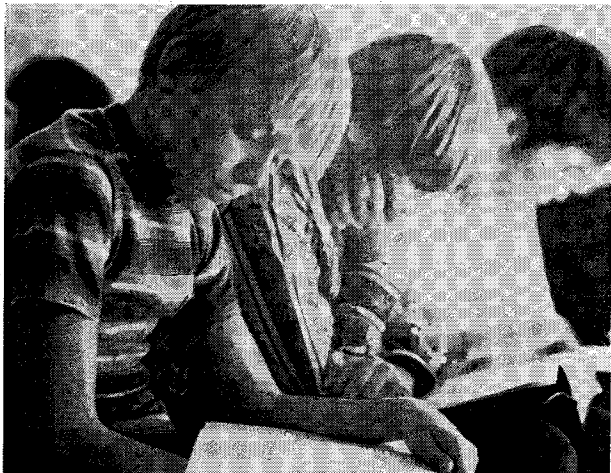
先日、この召しの来たとで、私は裏庭に出た。その時、私は心の眼で、アロン神権者たちの群れを見ることができた。優秀で、善良で、真実な青年たちであり、心を尽くし、思いを尽くし、主のみ業に働こうとする青年たちであり、今日、私たちの前におられる

幹部の方々の表情に見られると同じものを、自らの表情に刻み込みたいと願う青年たちであった。そして彼らは、その業をよく果たし、また従順で、指導者たちに対し献身的であった。

そして一方、非常に悲しいことではあるが、私の心の眼は、自らの不従順のゆえに、それを自分の表情に刻み込めないでいる一団のアロン神権者たちの光景をも捕えた。彼らは、友人や仲間たちの説得を受けていた。

それから私は、第三の群れを見たがそれは、一層私を慄然とさせた。彼らは、よき指導さえ受ければ、忠実であつたろうと思われる青年たちであつたからである。もし誰かが、彼らに手を差し伸べ、支え、引き上げ、そして関心をもってくれさえすれば、彼らは、高潔さと、愛と純粋な思い——みな、気高い性質である——を、彼らの生活に取り入れていたであらう。

私は、私の妻に対し、言葉で言い表わせない程の感謝の念を抱いている。彼女は、私がかつて知った人々のうち最も優しく、親切な人間である。そしてまた、使徒や予言者、そして教会幹



部の方々に見られると同じものが、彼女の表情にも見られる。私にはまた、5人の息子がいる。2人は、それぞれガルフ諸州伝道部と、北カロライナヴァージニア伝道部で伝道中である。2人とも、イーグル・スカウトである。それぞれの手紙による限りでは、共に伝道の召しを通して主に仕えようと、全力を尽くして働いているようである。

家には、もう2人の息子——ジョーとスコット——がいるが、かれらもまたイーグル・スカウトである。私たちは、彼らを誇りに思い、また彼らもよく従い、期待に違わず、従順である。それから末の息子、11才になるロレンスがいる。私は、モルモンと同じような体格をしていると思っている。大きく、力強い少年である。彼のことも誇りに思っている。それから、5人の息子のあとに、一人娘のシルがいる。私たちは、シルが私たちの家庭に送られた特別の天使であると確信している。

私は、(ビクター・L)ブラウン監督の信頼に感謝している。私は、この過ぎ去った1週間——実際、私の生涯で最も長い1週間であったが——を振り返り、私が教会で知り得た偉大な人々や彼らの力強い影響力や、その甚大なる指導力について、また、主に喜んで従う決意について、深く考えてみた。それを考える時、私は、ブラウン監督が私のような者でも召して下さり、また、主がブラウン監督を通して私を召して下さることを思い、心から

へりくだりたい気持である。

皆様に、証を述べさせていただきたい。最初に、私の優しい母と義母について述べたいと思う。共にすばらしい人々である。私の母は、独力でよく私たちの家族を育て上げてくれた。母は私たちをよく導き、精神と肉体の両面にわたって、希望を持たせてくれた。母は、私たちにその精神を植えつけ、また自分自身で道を開いていくよう願っていてくれた。それゆえ、私は、母を本当に誇りに思うのである。

終わりにあたって、アルマ書から予言者の言葉を引用させていただきたい。アロンが、終日レーマン人の王に向かって説き続け、遂に王は信じるに至るというくだりである。これが、その言葉である。

「アロンがすでにこれらのことを王に教えたので、王は『汝が話したこの永遠の生命を得るためにはわれはどうしたらよいか。どうしたら、この悪い心をわが胸からとり去り、神の子となり、神の「みたま」を受けて心に喜びを満ちし、終りの日に捨てられないようになるか。見よ、この大きな喜びを得るためには、われは一切の持物を捨てる。わが王の位を人にゆずってもよい』と言った。

しかしアロンはこれに答えて『王がもしもそのように望むならば、よろしく神の御前にひれ伏し、まことに一切の罪を悔い改めてから神の御前にひれ伏し、必ず受けると信じて信仰堅固に神に祈るならば、王の望みはきっと成

就する』と言った。

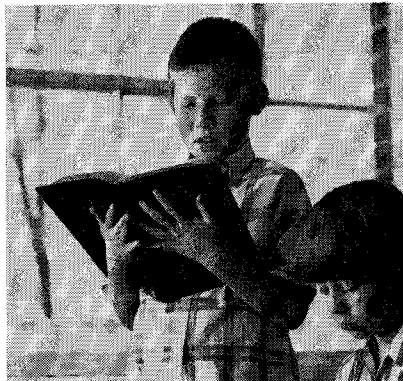
アロンがこのような言ったから、王は主の御前にひざまずき、低く地にひれ伏してひたすら歎願して言った。

『神よ、アロンは神のましますことをわれに教えたり。神、はたしてましまし汝すなわちその神ならば、汝のことをわれに知らせたまえ。さらば、われは汝を知り、死よりよみがえりて終わりの日に救われるようわが一切の罪を捨てん』と。……』

(アルマ書22章15—18節)

アロン神権者たちの大きな群れがある。彼らは、神を身近に知りさえすれば、自らのすべての罪を捨て、世の提供するあらゆる物を捨て、自らの富をも捨てようとする青年たちなのである。今日、私たちに与えられている厳粛な責任は、これらアロン神権者たちを助け、もって彼らがその偉大な召しを知り、理解することであり、また神が確かに生きてましますことを知ることであり、そしてこの地上に、生ける予言者のいることを知ることである。この私も、確かに神が生きてましますことを証する。

この20年間というもの、私は私たちの愛する予言者を、そして十二使徒の方々を見続けてきた。私は、彼らが確かに靈感を受けた人々であり、神聖な人々であり、予言者たちであることを知っている。私はこれをイエス・キリストのみ名によって証する。アーメン。



十二使徒評議員会会員
ゴードン・B・ヒンクレー

何人かに聞いていただけることを希望しつつ、私は教会との接触を失っている2つのグループについて意見を述べたいと思う。すなわち、名目上教会員であるがつながりの絶えている人々、それにどこにでもいる疑い深くかたくなであり、せんさく好きな質問をして実用主義的な解答を欲するような人々である。

そこで私は「教会はあなたのために何をなすか」という質問に対して次のように答えたいと思う。

1. 世界で最も偉大な友愛の交わりに導く

誰もが仲間の連帯感に飢えている。この欲求は、クラブや同業者組合、また社交グループなどの組織である程度は満たされる。しかしこれらのものは有益だが、神権組織に比すべきものは全くない。

ここでは、何百何千という人々が人生の名誉ある地位から集まり、神のみ名により行なう権能、すなわちお互いを強め、助けるためのすばらしい聖なる贈り物を与えられているのを見いだすであろう。

主のペテロへのみ言葉は彼らの立場にふさわしいものである。主は言われた。「シモンよ、……サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願ってゆるされた。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないようにあなたのために祈った。それであなたが



教会はあなたのために

何をなすか

教会は、人々が人生の責任に直面する備えをさせる

ことによりどのような利益を与えてくれるか。

立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ22:31-32)

これが教会の神権定員会組織の偉大な目的の1つである。すなわち人々の必要に気づき、お互いを強める機会とその媒体をもたらすことである。

1人の地方の教会の役員がある日私を訪ねて来た。彼は弁護士だったが、彼の隣人の1人が離婚について彼の助力を求めに来たと言った。その人の結婚生活は深刻な困難に直面していた。彼と妻とは自分たちの資力をはるかに越えて生活して来たのである。彼らは取り返しのつかない借金をし、金銭上の問題のために口論が絶えず、2人の結婚生活、もはや共に生活することを許さないところまできてしまっていた。

私たちはこの事柄について論じ合いその結論として3人の神権定員会の人々が彼らの問題を解決するために彼と妻と共に働くよう任命された。1人は弁護士、1人は銀行家、そしてもう1人は計理士であった。夫婦は彼らの問題をこれら隣人と兄弟の手に委ねることに同意した。

専門家としての職業経験による持ち前の熟練さをもって、この委員会は活動を開始した。彼らは債権者たちを訪れた。債権者たちはこの委員会の能力を信頼してこの問題解決のために時を貸すことを承諾したのだった。例の兄弟にとって、これらの問題は全く手の施しようがないものであっただろうが

経験豊かな兄弟たちにとっては1つのチャレンジにすぎなかったのである。

混とんの中から秩序がもたらされ、平和が家庭によみがえった。新しい意味の保証が彼の人生に到来したのである。彼の妻は前には決して示したことがない尊敬を寄せるようになった。2、3年たって、彼の債権者たちは債権を皆回収することができた。その人と妻は家庭を本来あるべきように管理する資格の原則を学んだのである。

パウロがローマ人に言っている。

「わたしたち強い者は、強くない者たちの弱さをになうべきであって、自分だけを喜ばせることをしてはならない。」(ロマ15:1) これ、すなわち彼ら自身を喜ばせるためではなく、天与の責任を果たすためにお互いの弱さをになうことがこの偉大な組織の精神なのである。

2. 教会の活発な会員は、必要ならば人にその人生を正す動機を与える

この教会の宗教体験集の中には、イエス・キリストの福音に鼓舞高揚され良き人々との交わりから感化を得て、長年にわたって己れをしばりつけていた悪習をやめる力を受けた何千何万という人々の例がある。

何年前かに、私は1945年8月6日、一瞬のうちに8万5千人の命が奪われたあの悲劇的な広島原爆記念塔のそばに1人の日本のビジネスマンと共に立った。彼は日本帝国軍人であったの

でその経験からすべてのアメリカ人に憎悪の感情を抱いていた、と話してくれた。

ある日、私たちの宣教師が2人、彼の家をノックした。彼はひどく酔っていて話ができなかった。あらゆる目的が彼の人生から去ってしまい、彼にとってただ1つの逃避が酒を飲むことだったのである。訪れた2人が何であるかわからずに、彼は後日来るように言った。そして数週間後、彼はバプテスマを受けたのである。改宗によって彼の人生に目的がよみがえった。古い習慣を振り棄てる意志と、完全に変わる強さがもたらされた。彼を導き、心中に動機を植えつけてくれた若い青年たちのことを、彼は感謝を込めて語ったものである。

私たちが話した時には、彼は支部長会の一員として、また活発な長老定員会の1人として奉仕していた。要するに彼のような例は数限りなく増えることであろう。人々にその生活を改めようとする望みと意志とを与えるイエス・キリストの福音にまさる力はないのである。

3. 教会での活動は、責任を通して成長する機会を与えてくれる

私たちが努めるにつれて成長するということは、人生そのものと同じように真実である。とりわけ末日聖徒イエス・キリスト教会は、指導性を発達させる偉大な学校である。私は世界の様々な所で宣教師たちにあうたびに、「あ

.....わたしたち強い者は、強くない者たちの弱さをになう

なた方は一見そんな風には見えないけれど、主の持ちたもうすべてを宿しているのです」と話した。不思議にも彼らが主に仕えるに伴って能力と業績との面で偉大な人となるのである。

私たちの皆がそうなのである。主のみ業を押し進めるためには、私たちが努めなければならない。この教会では誰かが絶えず責任ある地位を埋めなければならないことになっている。偉大な訓練の計画により、みたまの導きを受けて努めるにつれ、能力が向上し、力強く成長していくのはすばらしいことではないだろうか。

兵役にあった間に初めてこの社会へ来た1人の青年のことに話を戻したい。ある日曜日、彼はテンプル・スクエアを歩きまわっていた。ここで始まった会話がついに彼をバプテスマへ導くことになったのである。

4、5年後、私は彼を長老定員会会長に召すための面接をした。彼は子供の頃、孤児でいろいろな所をたらいまわしにされたこと、孤独ですきでいた生活、教育を受ける機会が閉ざされていたことを話してくれた。そんな彼が教会に入り、次々と責任を受けた。どの責任も彼の力量以上のものだったが、努力を重ねるにつれて能力は向上している。

そのようにして、今では主要な責任を受ける備えができたのである。彼のすべての生活は変わった。今日では彼は教会の職にあり、責任ある地位の優

れた働き手であり、良き夫であり、模範的な父親であり、すばらしい隣人である。

ロバート・ブラウニング¹は「つかむことはできなくとも触れることのできるものがある」と言っている。成長は私たちが現在の能力を越えて進もうと常に探し求めるに伴ってもたらされる。教会プログラムの注目すべき方向の1つは、人々が自分自身を伸ばして少しずつより高い所に達するよう常に動機づけるところにあるのである。

4. 教会の会員となり活動に活発に参加することはあなたの人生に新しい次元をもたらす。それは神のみ名によって語る権能が授けられることともに信仰の岩となる、霊的な次元である

この神権時代に主のみ業が始められた時に、主は福音の回復の目的の1つは、「あらゆる人々主なる神すなわち世の救い主の名によりて語らんため」と言われた。(教義と聖約1:20)

祈りが聞き届けられ答えられる確信をもって祈る人は幸いである。聖霊を伴とすることのできる人は幸いである。また神のみ名によって語る権能をもっている人は幸いである。

ベルシャザル王が酒宴の夜に友人たちを招き集めた時、人の手の指が現われて壁に物を書いた。占い師と易者たちがその文字を解き明かすために召されたができなかったため、王は大いに思い悩んだ。

そこで王妃が言った。「あなたの国には、聖なる神の霊のやどっているひとりの人がおります。あなたの父の代に、彼は、明知、分別および神のような知恵のあることをあらわしました。」(ダニエル5:11)

ダニエルは王の前に召され、自分に宿されている力により、壁に書かれた文字を解き明かした。

私は、神権を有し敬うすべての人は内に「明知、分別および神のような知恵」をもっていると考える。

活発な教会員であることはあなたに何をなすであろうか。それは真にあなたの家族、仲間とあなた自身を幸せにする霊的な次元を加えるであろう。

5. それはあなたが家庭を治める助けをする

自分の妻を、永遠の目的への天与の道を共にたどる神によって定められた永遠の伴侶だと考え、子供たちを、この世の両親に面倒をみるようにと託された天父の子と考える一家の首長がどの家庭にもいたら、国家はいかに強くなることだろうか。

行ないは態度の産物である。このように真の福音の原則を家庭を治める指針としている家庭では、お互いの認識と尊敬、礼儀が生まれるであろう。父親は妻や子供たちを神から授かった祝福として養育し大切に、守り愛するからである。

教会へ改宗した人がかつてこのように言った。「父親として、私は子供た

べきであって、自分だけを喜ばせることをしてはならない……………

ちをむち打つことがよいと信じていました。ちょっとした規則違反にもすぐ肉体的な罰を加えました。しかし福音が私の家庭にもたらされ、私は子供たちを新しい考え方で見るようになりました。彼らは確かに私の子供たちです。でも、同時に私たちの永遠なる天父の子供なのです。どうして神の子を虐待することができましょう。私は子供たちについて全く新しい見方をするようになり、彼らも私に対して新しい態度で答えてくれるようになりました。

私の家庭に罰がありますか？

ええ、しかし全く異なった種類のものです。私たちはもはや敵ではありません。悪いことをした場合には、罰則はありますが、それは異なった性質のもので当然の報いとして受けとめられ以前のように辛い恨みを生むものではありません。今ではお互いの間に尊敬があり、それにも増して愛があります。何という変化を福音はもたらすことでしょう」と彼は話を終えた。

「そうです。福音はそれが受け入れ生かされる時に、何という変化を生じることでしょう。」私はそうつけ加えた。

6. 教会はあなたの最も愛する人と の永遠の結びつきを約束する

人生において家族の関係ほど、神聖で、確かで、結果において重要な関係は他にない。結婚の時にしばしば言われる「死が汝らを分つまで」という言

葉の暗示は何と悲劇的なことであろうか。

結婚がこのような儀式で結ばれる以上は、確かに死による家族関係の分離や解消の宿命があるであろう。永遠の愛なくして、永遠の生活を考えることは逆説や矛盾を築くものである。

愛する永遠の天父は、その子らのためにこのような聖なる関係を永続できるようにして下さった。主はその12人の使徒に言われた。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そしてあなたが地上でつなぐことは、天でもつなされる……」（マタイ16：19）

その同じ力、「地上でつなぐことは天でもつなされる」力が今日この教会にあり、それは神殿で執行される。そこでは聖約のもと、父と母と子らが時間の引き裂くことのない、死も滅ぼすことのない永遠の結び固めが神権の権能により行なわれるのである。

私は先頃この社会の優れた人物の葬儀で話したことがある。それは確かに悲しみの時であった。がしかし、同時にそれは安堵の時でもあった。その日遺族となったすばらしいご婦人と子供たちの涙を通して輝いていたのは、彼らの夫、父親は、やがて来るべき再会に備えるために、この世にしばしの別れを告げたのにすぎないという確信から来る安らぎのほほえみであった。

その葬儀の後すぐに私はその時の葬儀の委員長——私たちの宗派ではない——から手紙をもらった。彼はこう書

いている。「あなた方は本当に感動的な積極的な態度をもっています。あなたは慰めるために来たのであって嘆くためではなかった。死をのろうためではなく生を讃美するために。あなた方の深い信仰が、死だけではなく人生の様々な有為転変を乗り切らせているに違いありません。」

教会はあなたに何をなすであろうか。それは、死は単に卒業であるにすぎず、あなたにとって最も貴重なものが永遠にあなたのものとなる確証を与えてくれるものである。

いたる所の兄弟たちに、無関心になり、押し流されてしまった人々に、まだ来たことのない人々に、私は、来てごらんないかと招きの手を挙げたい。神はその英知によって、あなたの人生を豊かにし、安らぎをあなたの心に、喜びと愛をあなたの家庭にもたらし、今あなたの愛しているものを永遠にあなたのものとする組織を打ち建てたもうた。

兄弟たちよ、門は開かれている。あなた方は暖かく迎え入れられるであろう。あなた方を助けようと望んでいる大勢の善き人々を見いだすであろう。さらに私は主の僕として、あなた方が来れば今まで決して味わったことのない喜びを知るであろうと、少しのちゅうちょもなくお約束する。

これらを、イエス・キリストのみ名によって、心から感謝の念をもって証する。アーメン。



かわいい子供の プレゼント

だいお前のことですが、4歳になる
1人のやさしい女の子の話なんです。
その子は知っている字を一生懸命1枚
の紙に書き、その紙で持っているお金
を全部包んで、おばあちゃんの家へ出
かけて行きました。そしてそのプレゼ
ントをあげると、また急いで家に帰り
ました。それはクリスマスの朝でし
た。

それから数十年過ぎて、おばあちゃ
んは死んでしまいました。そこで家族
のみんなが集まって、形見の品を
調べるためにおばあちゃんのトラ
ンクをあけてみました。長い人生
にもかかわらず、おばあちゃんの
持ち物は少ししかありませんでした。
もちろん高価なものは1つもありませ
ん。でも、トランクの底に紙包みが1
つはいていました。薄汚れた紙の上
に、子供っぽい字でこう書いてありま
した。「おばあちゃん、だいすき。」
あけてみると中にはいていたのは
3枚の銅貨でした。

メアリー・M・エレスワース

光のお祭り

ミリアム・バスキン

絵・ロナルド・ウィルキンソン



イエスが少年のときに宮きよめと呼ばれるずっと昔からある休日を祝いました。宮きよめの祭りは「光のお祭り」とも言われます。

それは冬の12月のある日。

イスラエルは冬は暖かです。子供たちはその日、イチジクやナツメヤシをもらいます。そしてずっと昔のお話を聞きます。

ふしぎなふしぎな光のお話。

ずっと前に、悪い人たちが神殿をたおそうとしました。でも民は強かったので、その人たちを追い払いました。神殿はきよめられました。

そして聖餐台にあかりをともしようとしたのですが…油は小さなつぼにたった1ぱいしかありません。

「これでは一晩ももたないぞ」人々は言いました。

でもあかりはともされました。

そして人々は神様に感謝しました。

するとランプは一晩ばかりか8日も明るく燃え続けました。人々は言いました。

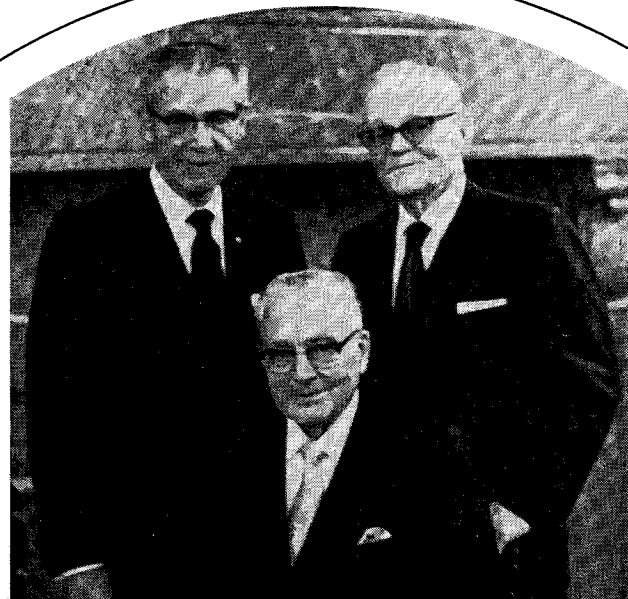
「主から下ったしるしだ」

「みんな自由に、主を愛そう」

これはイエスが聞き、そして今日なおユダヤの子供たちが聞くお話です。

冬がめぐり来て、宮きよめの祭りが近づいたときに。

全世界の教会の
子供たちにおくる
クリスマスの
ことば



小さなお友だちへ

大管長会から

あなたがたはみんな私たちの天のおとう様の子供です。あなたがたのかわいい心と若い霊的な心は、地上の王国であるこの教会の王冠の輝ききらめく宝石のようです。あなたがた選ばれた霊たちは、ほんの少し前まで救い主イエス・キリストのみ前にいました。

私たちはこの楽しいクリスマスの季節に、そのイエス・キリストがお生まれになったことを思い出し、それをお祝いします。

およそ2千年前、羊飼いたちはベツレヘムの丘の中腹で羊の群れを見ていたときに、天のみ使いが救い主の誕生を告げるのを聞きました。羊飼いたちはその天使の言った場所へと夜もねないで急ぎました。そして布にくるまって、かいばおけの中で寝ている御子を見つけました。

この幼な子はますます成長して強くなり、知恵があって、神様の恵みがいつもありました。

イエスさまはおとなになると、自分のまわりにいつも子供たちを引き寄せました。そして大きな愛を、きよくけがれののないものに示したいと思いました。そのようなものがまわ



りの小さな子供たちの、何も疑おうとしない生活の中にあることを見つけたからです。彼は次のように教えました。「幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはなりません。天国はこのような人たちの国です。」イエスは、みもとにかえりたいと望んでいる人々は、幼な子のようにけがれがなく自由で、正直で、何ごとをも疑わず、けんそんで正直でなければならないということを使ったのです。

イエスがみもとに子供たちを呼び寄せたとき、子供たちはイエスの深い愛を少しも疑いませんでした。子供たちは、イエスのあたたかいやさしいうでの中で安らかな気持ちになりました。そして自分たちのそばにイエスがいることをうれしく思い、楽しいことだと思いました。イエスは子供たちをほんとうに愛していました。そして彼らはそれを感じることができました。

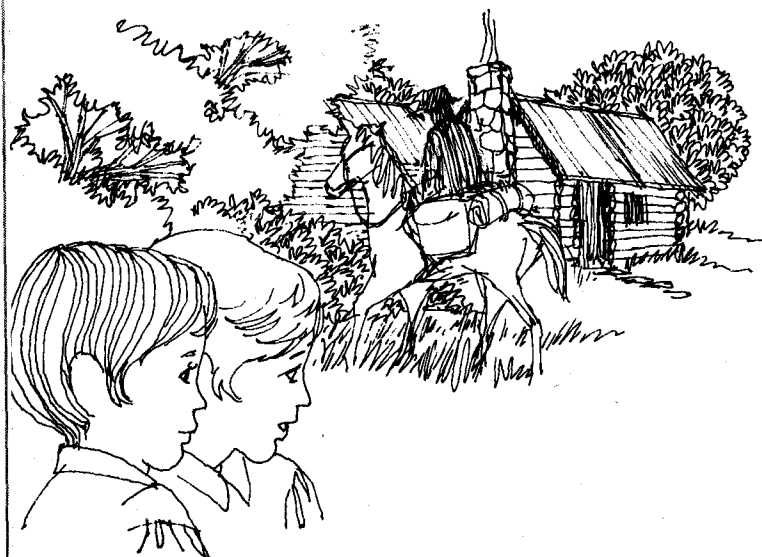
贈り物をするこの時期に、私たちがあなたがたに最もほめることは、あなたがたが福音のほんとうの大切さを知ってそれをよく理解し、イエス・キリストのように生活してほしいということです。そのように生活するためには、できるかぎり力をつくしてイエスの生活と教えを知らなければなりません。あなたがたは聖典を読んだり、教会に出席したり、神様に従った生活をしている愛する両親や兄弟や姉妹の教えや模範を通してあなたの家庭で学ぶことによって、これを学べるでしょう。

あなたがたはいつも救い主の模範に従うようにしなければなりません。あなた方がある問題にぶつかり、選ばなければならないとき、「イエスさまならどうなさるだろう」と自分の胸に聞いてください。そしてイエスさまがなさるだろうと思われるようにあなたがたもしてください。

主の導きを求め、またそれを受けるにふさわしい生活をすれば、いつも主が導いてくださることを感じるができます。イエスさまがこの地上においでになったときに、そのまわりにいた子供たちが得たとまったく同じ神聖な気持ちをあなたがたも得ることができます。

私たちは、あなたがたが祈りをとおしてまた主の戒めをよく守ることによって、天のおとうさまに近く生活することがいちばんよい方法であることを確信するように祈っています。

冬の食糧を得るために



メアリー・プラット・パリッシュ

絵：バージニア・サージェント

ノーヴーを離れるとき、トミーの家族は1年分の食糧を持っていました。西の谷に着いて、そこで作物をうえるまでその食糧で十分持ちこたえられると思ったのです。でもまだ彼らはウインター・クォーターズにいて来年の春までそこにとどまりそうでした。

トミーのおかあさんはエライジャと妹のエリザを家に招いておとうさんがモルモン大隊に加わってるすの間、トミーやベッツィーといっしょに住むようにさせました。ふたりのおかあさんは最近なくなり、もっている食糧もほとんどありませんでした。

トミーはエライジャにこのことについて何度か話しました。「もしぼくたちがお金を持っていたら、セント・ジョセフへ行って、必要な物を手に入れることができるんだけど。セント・ジョセフはここからたった80キロしか離れていないんだ。荷馬車で行ったら2週間以内でもどって来れるよ。どこかお金が手に入るところはないかなあ。」

ある日、トミーはパーレー・P・プラット兄弟が馬に乗ってキャンプの中に入っていくのを見ました。3週間前、プラット兄弟はジョン・テイラー、オルソン・ハイドとウインター・クォーターズを出てイギリスへ伝道に出たはずでした。トミーはなぜ彼がひとりでもどって来たのだろうと思いました

た。

プラット兄弟は、まっすぐキャンプの書記のウイリアム・クレイトンの事務所のある小屋の方へ行きました。トミーは彼が中へ入っていくのを見て、戸口のところで待っていました。

それから2、3分してクレイトン兄弟はトミーを呼びました。「おかあさんあてと、エライジャあての手紙だよ。おかあさんに、プラット兄弟がモルモン大隊の人たちから受け取ったお金を持ってキャンプにもどって来たと言って来てくれないかね。彼はリーブンワースとりでで彼らに会って、自分から進んで、イギリスへ行く前にお金を持ってウインター・クォーターズにもどって来てくれたんだよ。」

トミーはキャンプに着くと、大声でみんな外に出るように言いました。「エライジャ、おとうさんからの手紙だよ。そしてもうひとつはおかあさんに」とトミーは言いました。

トミーとベッツィーはおかあさんが手紙を読むのを静かに聞いていました。「ヤッホー！」おかあさんが、クレイトンの事務所に食糧を買うためのお金があるというところを読むとトミーは大声で叫びました。

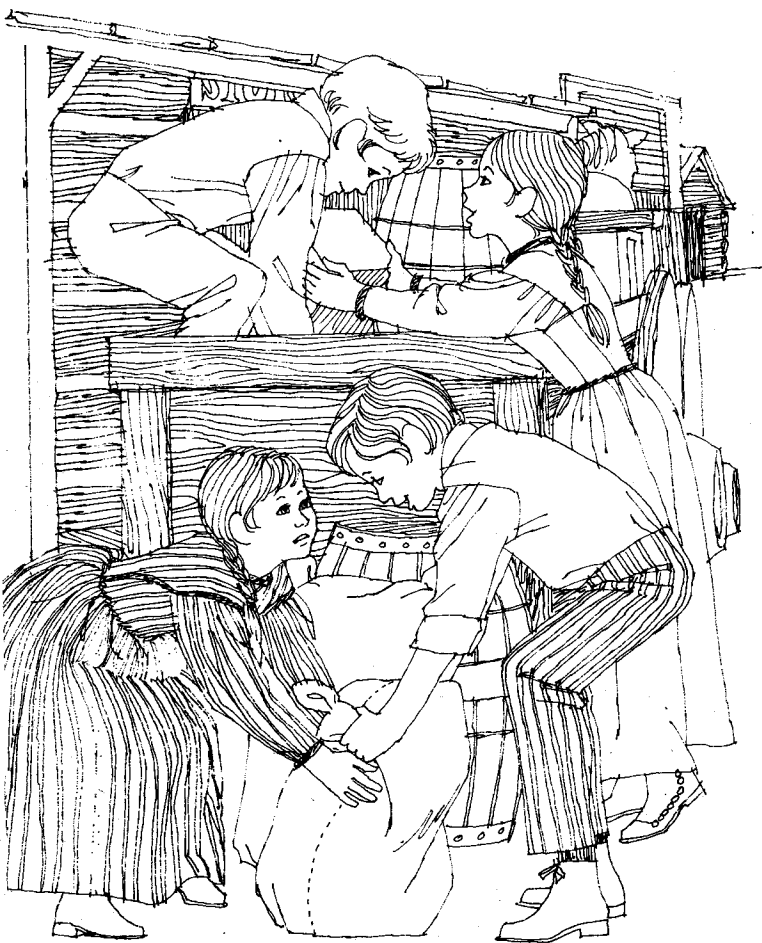
「おとうさんが君たちにもお金を送ったと書いてあるよ。もし食糧を買ってお金があまったら、エリザとぼくは新しいくつを買えるかも知れない。」エライジャが言いました。

トミーのおかあさんは間もなくやって来る寒い冬のことを考えていました。「十分なお金が残るはずよ。」おかあさんは自信ありげに言いました。トミーはほかに何を买おうとも、エリザとエライジャのくつを買いだと思いしました。おかあさんは彼らの肩に手を置いて「あなた方のおとうさんがどんなに速く離れていても、あなた方のことを思っていて下さることがわかってよかったわね」と言いました。

トミーはずっとどうしたらセント・ジョセフへ行けるかしらと思っていました。「おかあさん、ぼくたち朝セント・ジョセフへ出発していいかな」トミーはおかあさんにたずねました。

「もしだれかいっしょに行く人がいたら行けるわ」おかあさんがこたえました。「おとうさんが決してひとりで遠くへ行ってはいけないうておっしゃったでしょ。」

「マーレイ兄弟がセント・ジョセフへ行くところだって先週聞いたよ。ぼくたちマーレイ兄弟といっしょに行っている



？」トミーが言いました。

「そうね。夕食のあとマーレイ兄弟のところへ行ってたの
んでみましょう。」おかあさんがこたえました。

マーレイ兄弟はいっしょに行くことをとても喜びました。
2日後、トミーが1つの荷馬車のたずなを取り、エライジャ
がもう1つの荷馬車のたずなをとって、マーレイ兄弟とその
息子と共にウインター・クォーターズを離れました。

セント・ジョセフで彼らは最初にエライジャとエリザのく
つを買いました。それから彼らは荷馬車にトウモロコシ、小
麦、ジャガイモをいっぱいつめました。ベッツィーは、農夫
が畑から直接お店に持って来たハチミツを長い間見ていま
した。しかしハチミツを買うお金は残っていませんでした。

「気にしないで。ノーヴーではぼくたちは野生のハチミツ
を取ったんだ。たぶん途中にミツバチがもういなくなったく
ぼんだ木があるよ。」

セント・ジョセフを出て2日目の夜、トミーとエ
ライジャがキャンプの見回りをしているとき、
くぼみのある丸太を見つけました。それは
ヘリまでいっぱいハチミツがつまってい
ました。少年たちは、入れ物を持っていま

せんでした。それで彼らは木の皮にハチミツを少しすりこん
で、夕食用に持って行きました。その後彼らはハチミツを取
るために2つの大きなやかんを持ってそこにもどりました。

彼らがやかんの中にハチミツをすくいはじめたとき、後で
低いうなり声がしました。ふりむくと、やはりハチミツの木
を見つけた大きなクマがいました。やかんをほうり出すと、
彼らは助けてと叫びながらキャンプの方へまっしぐらに走っ
て行きました。あまり急いだったのでトミーは丸太につまづいて
しまいました。エライジャはトミーがたおれるのを見まし
た。クマは彼のすぐ後にいたのです。「トミー、丸太の下に
すべりこめ！」と彼は叫びました。

マーレイ兄弟は少年たちが助けを求めて叫ぶ声を聞きました。
彼はライフルを持って走って来て、慎重にねらいを定め
て、撃ちました。クマはどうっと丸太のわきにたおれて息が
絶えました。

「マーレイ兄弟、ありがとう。」少年たちは感謝して言い
ました。そしてトミーは、おとうさんが決してひとりで遠く
へ行ってはいけないと言いついて残して行ってくれたことをありが
たく思いました。

トミーの耳におかあさんが言った言葉が何度も聞こえまし
た。「おとうさんはどんなに遠く離れていても、あなた方の
ことを思っていて下さることがわかってよかったわね。」





リコのクリスマス

バーバラ・ウィリアム・ニーランズ

それはクリスマス・イヴのことでした。12月の間、ブラジルではいつもそうであるように、その日もあたたかい日でした。リオデジャネイロではクリスマスは真夏に来ます。

リコとおとうさんは仕事をさがしに町へ行くところでした。ふたりは、水を入れる四角いかんを頭にのせて丘をのぼって行くリコのお姉さんたちのそばを通り過ぎました。少女たちは、ほこりっぽいジグザグの小道を歌を歌いながらはだして歩いていました。少女たちは無ぞうさに歩いているように見えたが、家に行く途中は1てきも水をこぼしませんでした。

彼らの家は、町を見渡せるがけの上にしがみつくように立っている小さな家の集まったファベラの中の一つでした。そこではリコのおかあさんが待っています。

リコのおとうさんは「私は、病

気の小さなパキーナを残して行きたくはない。でも、もし私が仕事を見つけないことができなかったらとてもクリスマスを送れそうもない」と言って出かけてきたのでした。

ふたりは丘をおり、何時間も町を歩きました。リコのおとうさんは強くてハンサムでしたが、やとところはありませんでした。

「あしたならね。」いつもそう言われました。

道ばたでは年とった女の人や若い少年たちがクリスマスの日のためのクッキーやねばねばしたあめを売っていました。きらきらした彫刻や緑の花輪が方々のウィンドーにかかっています。1つのお店にはウィンドーにクリスマス・ツリーががざってありました。リコは長い間、それを立って見ていました。

それはリオデジャネイロでも、

またブラジルのどこにも見られないような木でした。光が枝のはしから輝き、雪のようなものが板の上ののっていました。ブラジルでは高い山にしか雪が降りません。それもほとんど7月かぎりです。

「さあ行こう。」リコのおとうさんもそのクリスマス・ツリーがほしいと思いましたが、たまりかねてそう言ってしまいました。

けわしいがけをファベラの方へ登って行くときには、あたりはまっ暗でした。

ふたりは家からもれて来る光をたよりに登って行きました。その光は窓やタール紙のカベのさけ目を通して輝きました。ほかの家からの光が暗やみの中で光っていました。それはきれいなひと続きのもようのようでした。

おかあさんが小さいパーキーナを看病しながらまだおきていました。



「熱は下がったわ。これですてきなクリスマスを迎えられそうね。」 おかあさんはリコとおとうさんに言いました。

「うれしいことだね」とリコのおとうさんが言いました。「帰る途中、町のはずれからずっと家のあかりを見てきたよ。」

みんなでいろいろなことを話しましたが、リコはどうしておかあさんのともすランプががけの上で明るく輝いているように見えたのだろうと考えていました。町のお店のウィンドーにあったクリスマス・ツリーのことを考えていたのです。それからリコは暗やみの中に姿を消して行きました。

彼はころげるようにしてかけて行って、いとこや近くの人や友だちを起こしました。

ピータおばさんの家では「おばさん、ろうそく持っていますか」とたずねました。

「ちょうどよいぐあいにランプと燃料の油が少しあるわ。」おばさんがこたえました。

「それにあかりをつけて。」リコが言いました。「ここでもやさないで。いとこのファビアのところへ持って行って窓べにおいてよ。」

そう言ってリコは走り去りました。

「ジョセフおじさん。」リコは大声で呼びました。「おじさんは流木をたくさんためてるでしょう。だから今晚それを使って大きな火をしてほしいんだ。ここで、いつものところではなくて少しこっち側で。」

みんなはリコに何をしているのかとたずねました。リコはまるで秘密を話すようにささやきました。すぐにみんなは、わかりました。間もなくリオデジャネイロのみんながそれを知ることでしょう。



リコのクリスマス

ファベラのどこかしこで光が輝き始めました。リコは家から家へ走りました。彼が行く先々で笑い声や光がはじけました。暗やみの中であちこちから呼び声が聞こえました。

「もう少し火を高くあげろよ。」ひとりがさけびました。

「うちのランタンと並べてたいまつを置けよ。」もうひとりが叫びました。

年とったマンマ・ベネディータは、最後にそれを聞きました。ベネディータはファベラの低い方のはずれ近くにあるツバメの巣のようながけの上の小さな竹の家に住んでいました。リコはベネディータに火をいきおいよく燃やしてくれるようにたのみました。そしてもう一度けわしい小道を町の方へかけおりて行きました。

リコはおとうさんが後ろから急いで来るのにまるで気がつきませんでした。人が大勢い町角まで来て目を上げると、真夜中の聖餐式の後、教会の外で人々ががやがやお話をしていました。

人々がファベラの方を見上げ始めました。

「クリスマス・ツリーだ。光がいっぱいついたツリーだ。がけの上の人たちが作ったんだよ。」

町の上にほんとうに空高く、ピータお婆さんのランプやマンマ・ベネディータの炉やファベラのそのほかのきんきら輝く光でつくった明るいクリスマス・ツリーがみごとな姿を見せていました。リコたちがつくったのです。

リコとおとうさんはもう一度ほこりっぽい道を登ったとき、あかりが一つ一つ消えていきました。ファベラの人々はそのようなすばらしいクリスマス祭でさえも、ほとんど燃料を持っていませんでした。

半分ほど登ってから、ふたりは止まってリオデジャネイロの港の方をふりかえりました。遠くに、別のたくさんの光の群れが見えました。

「入港してきた船だよ」おとうさんが小声で言いました。「クリスマスの朝でも、荷下ろしの荷役

人が必要だろう。おとうさんはまっさきにやとってもらおう。」

おとうさんはリコの肩をたたきました。

「もしおまえのクリスマス・ツリーがなかったら、船が入ってくることを知らなかったね。」おとうさんは笑顔でそう言いました。

おとうさんはドックの方へ走って行きました。

家に着いたときにはあたりは暗く静かでした。みんな寝ていました。リコはすみの方にある自分のねどこに背中を丸めて横になりました。クリスマスはみんなにとってたのしい日になるでしょう。しかしこんな楽しいクリスマス・イヴはないでしょう。

リコは横になりながら、空高くきらめいたクリスマス・ツリーのことを考えました。

「ぼくはとってもお金持ちだ。町の人みんなにクリスマスの贈物をあげられる人はそうざらにはいないよ。」リコは思いました。

ジェニーのすてきなクリスマス

シルビア・プロスト・ヤング

絵 バージニア・サー ジェント



ジェニーは荷馬車のうしろに立って、プレーリーの向う側に見える堀りおこされて土が盛り上がったところをながめていると、目に涙があふれ、胸がいっぱいになって息ができなくなりそうでした。その新しいお墓には、ジェニーのいちばん親しかった友だちのエリザベス・アンが眠っているのです。

ずっと前ジャクソン一家はノーヴーに来て、ジェニーの家のとなりに住んでいました。ジェニーとエリザベス・アンは秘密を教えあったり、おまごとをしたり、川のそばの土手の上を歩いたりして、とても楽しく過ごしました。でももうそのエリザベス・アンはいないのです。

ジェニーは荷馬車によりかかって泣いてしまいました。監督が前に復活について話してくれましたが、エリザベス・アンは生き返りませんでした。ジェニーは前にも同じような悲しい思いをしました。去年の夏、ノーヴーでおかあさんと生まれたばかりの弟が死んだのです。

その夜ジェニーはベッドに入ってから、ジャクソン夫妻はエリザベスをなくしてどんなに寂しがっているだろうと思うとなかなか眠れませんでした。というのはエリザベス・アンはジャクソン夫妻のたったひとりの娘だったからです。エリザベス・アンの弟のトミーはお姉さんがいなくなってさびしがっていることでしょう。そしてメアリー・メリンダも、寂しく思っているにちがいません。

メアリー・メリンダはエリザベス・アンの大好きだった人形です。メアリー・メリンダはきれいにカールしたブロンドのとてもすてきなお人形です。その青い目は開いたり、とじたりするし、顔や手や腕はせとものでできていて美しい色がぬってありました。そしてピンクのうすいモスリンの洋服を着てレースのきれいな飾りのついた小さな白いくつをはいていました。

ジェニーは今までそのようなお人形を買ってもらったこと

がありませんでした。でもエリザベス・アンは親切だったの
でいつもジェニーにメアリー・メリンダを使わせてくれたの
です。ジャクソン夫人はメアリー・メリンダをどうするのか
しらとジェニーは思いました。

次の日の朝、荷馬車隊は谷の方へと動き出しました。それ
は明るい太陽がさんさんと輝く日でした。でもジェニーにと
っては暗くさびしい日でした。

2、3日後ジェニーが大きなヤナギの枝でつくったかごの
中の着物を調べているときに、ピンクのつむぎ糸の玉が2つ
あるのに気づきました。それは、エリザベス・アンのもので
した。ジェニーは玉をこわさないように気をつけながらかご
の外に取り出しました。つむぎ糸の玉の1つにエリザベス・
アンがあみ始めたスカーフとあみ棒がついていました。

それはいつかエリザベス・アンが「ママのお誕生日にあげ
ようと思ってあんでるの」とジェニーに話してくれたもので
した。

「おかあさんのお誕生日はいつ？」とジェニーがたずねま
した。

「ああ、それはまだまだ、10月よ。」エリザベス・アンが
言いました。「でもそれを仕上げるまでにはずいぶんかかり
そうだわ。もちろん、おかあさんがいないときにだけあむの
よ。」

「ここにそれを置いて行ったらどうかしら。そうしたらい
つでもあみたい時にあめるんじゃない」とジェニーが言いま
した。

「そうね、ジェニー、それはいい考えだわ。」エリザベス・
アンはそうすることにしました。

さてジェニーはそのスカーフをじっと見つめました。それ
は1目表あみし1目裏あみした簡単なものでした。

「私にもできるわ。これを仕上げてエリザベス・アンのお
かあさんにあげよう。」ジェニーはそう思いました。そしてそ
の後、ジェニーは特別することがないときはいつもスカーフ
をあみました。荷馬車隊がその谷に着くとジェニーはするこ
とがたくさんありましたが、10月の初めにそのスカーフをあ
み上げました。でもまだふさ飾りをつけてなかったの、そ
れが終わったら、お誕生日のプレゼントはできあがりです。

ジェニーのおとうさんはとてもほめてくれました。そして

「まるでお店で売っているスカーフのようによくできたね」
と言いました。

ジェニーは頭にスカーフをかぶってたらいの上の小さな鏡
の中をのぞきこみました。するとピンクのスカーフはとても
きれいで、ふかふかしていてあたたかかったのうれしくな
りました。ジェニーはふさ飾りを仕上げたら、それをジャク
ソン夫人のところへとどけようと思いました。

次の日の午後、ジャクソン家の戸口に立ってノックしたと
きに、ジェニーの胸はどきどきしていました。6歳のトミー
が戸をあけました。ジャクソン夫人はストーブのところで忙
しく働いていましたが、ジェニーが入って行くところを振り
向きしました。ちょっと驚いたようでしたが、その顔はとて
もうれしそうでした。

「ジェニー！」ジャクソン夫人は叫びました。「あなたにあ
えるなんてうれしいわ。長い間あなたにあえなくてさびしか
ったわ。だから私たちのところへ来てくれたらなあって思っ
てたの。セーターをぬいでだんろのそばにいらっしやい。今
しょうがクッキーを焼いているの。あなた好きだったわね。」

ジェニーはセーターから茶色の紙につつんだ包みをそっと
出して、ジャクソン夫人にさし出しました。「おばさんのお
誕生日のお祝いに持って来たの。何日かは知らなかったけれ
どエリザベス・アンが10月だと私に話してくれたことがあっ
たから……。」

ジャクソン夫人はていねいにその包みを開きました。そし
て美しいピンクのスカーフを見ると、何も言えなくなってし
まいました。

「ジェニー、すてきだわ。」しばらくしてそうつぶやきま
した。

「それはほんとうは私からではないの」と言ってジェニー
はそのわけを手短かに説明しました。

ジャクソン夫人はほほにスカーフを近づけてそれをにぎり
しめ、「いつまでも大事にするわ。ジェニー、これは半分は
あなたからの贈物よ。これを全部あむのにずいぶん時間がか
かったでしょう。でもなぜ？」

「だって私は、エリザベス・アンがとても好きだったから
よ。そしておばさんも！」ジェニーはそうこたえました。

夕方近く、おとうさんと小さな妹たちにともらったクッキ



ーのふくろを持って家へ帰るとき、ジェニーはエリザベス・アンがすぐそばにいるような気がしました。長い間さびしい思いをしてきましたが、もう平気です。

それから日が飛ぶように過ぎて行きました。ジェニーは勉強をしたりおとうさんの仕事を手伝ったり、することがたくさんありました。知らない間にあたりは雪でおおわれ、クリスマスが近づきました。ジェニーはおとうさんにはくつ下を小さな妹たちには手袋をあみ上げていました。

クリスマスの前の日の朝、おとうさんはけわしい谷へ行くて美しいもみの木を持ってきました。ジェニーはクッキーとポップコーンを作りました。そしておとうさんが家に着くとさっそくみんなでクリスマス・ツリーの飾りつけをしました。

寝る前に、友だちや近くの人々がジェニーたちが楽しいクリスマス・イヴを過ごせるようにとジェニーの家にやって来ました。パン屋がつやのある小麦色をしたふかふかのパンを運んで来ました。ウィルケンスお婆さんはとうみつでこしらえたタフィーを作ってくれました。そしてジャクソン夫人は包んだ箱をかかえて来ました。

「あなたと、あなたの妹たちに」とジャクソン夫人は言いました。

ジェニーはすぐその場でその箱をあけたいと思いました。でもおとうさんが、それをあけるのはクリスマスの朝まで待ちなさいと言いました。ジェニーはほんとうにクリスマスの朝が来るかしらと思いながら寝ました。でもとうとうその日が来ました。

ナイトガウンを来たままだん炉のそばでジェニーは贈物の箱をあけました。ジャクソン夫人は小さい妹たちに、ボタンの目とつむぎ糸の髪の毛のくつ下のお人形をプレゼントしてくれました。次に美しいピンクのうすいモスリンの洋服を着たメアリー・メリンダがジェニーの目に飛びこんで来ました。メアリー・メリンダ、すてきなかみとパチクリパチクリする目をしたすばらしい人形！

ジェニーはエリザベス・アンの大事な大事な人形を箱から取り出しました。メアリー・メリンダの腕に小さな紙切れが結んであり、次のように書いてありました。「心から愛するジェニーへ」

最大の賜物

十二使徒評議員会会員

マーク・E・ピーターセン



若い成人たちは、まさに人生のとびらを開かんとしている。彼らは、その少年時代を生き、青年時代の困苦に対え抜きようやく最初の成熟期に入ろうとしている今、自らの持つ偉大な可能性をかいま見ている状態なのである。

彼らにとっては、ごく近い将来に視線を投ずること（誰もができることだが）さえ、血沸き肉躍ることなのである。

世界の人口の半分は28才以下の人々である。政界、教育界産業界に活躍する指導者の多くは、まだ30代である。

若い成人たちは現在急増する責任を受け、将来の出来事に並々ならぬ影響を与えようとしている。彼らは、いかなる世界を建設しようとしているのであろうか。

人間である以上、彼らもまたその父祖同様に過ちは犯すであろう。この世で誰が完全であらうか。今日、今だなかった程科学技術の恩恵に浴していることは事実であり、祖先たちより数段も高い教育を受けていることも事実である。しかし、私たちは本当に賢明になったであらうか。知恵というものは本当の進歩の源泉ではないのではなからうか。その知恵は、一体どこから……。

科学万能の今日、シェイクスピア以上の天才が産み出されたであらうか。ソロモン以上の知恵を持つ近代人はいるだろうか。一体、誰の著作が、イザヤやパウロの著作との比較に耐え得るであらうか。

科学技術は、「ヴェニスの商人」¹を産み出すことはできないし、いかなる近代の主義主張をもってしても、聖書の如き書物は書くことができない。それゆえ、過去には過去のもつ偉大さというものがあつたのであり、私たちは、今だにその甘い汁を吸っているのである。

ある種の偉大さというものが、各々の時代の特色をつくり出してきた。それは、常に共通の源から湧き上がったものである。その源とは、すなわち神である。

ソクラテス²は神を肯定した。シェイクスピアの記した最も荘厳な表現は、みな聖典の影響を受けている。コロンブス³は祈り、ワシントンやリンカーンやチャーチル⁴は、聖書の中にその指導を仰いだ。ダーウィン⁵は信心深かったし、現代の宇宙科学界のちょう児フォン・ブラウン⁶は、神聖なものを礼拝している。

それなら、若い成人たちは、どうしてそれ以下のことに甘んじていることができようか。もし、彼らの生きている世界が確かなものであるとするならば、それは、かつて人類の知り得た、ただ1つの確固たる基盤の上に立脚しているからに他ならない。すなわち、全能者に対する信頼がそれである。

いつの時代でも、神を否定して生きようとの努力が払われてきた。国家においても、個人においてもそれが試みられたが、同じような結果しか得られていない。

神を否定することは、必然的に、神の教える生き方を否定することである。神の法則は、ただ1つの目的をもって、たえず私たちを高めてくれる。すなわち、私たちを助け、神の如き者とするのである。

神に背を向ければ、私たちは進歩の道から離れて、見知らぬ方向に迷い込むであらう。それは退廃への道である。

誰にそんなことができようか。多くの人々が試みたが、皆

その代価を受けている。はじめは魅力的で、心を捕えるように思えても、その生き方は、高価で苦痛を伴うやり方である。

ローウェル⁷の言葉を言い替えば、「罪の代価は、罪自身が私に与えるもので支払われる」ということである。罪の支払う報酬は、あらゆる種類の心痛でしかない。

私たちは、数週間のうちにクリスマスをお祝いとしている。この喜びの季節に、過去の遺産の一枝を手折り、神の存在を認識すること以上のことがやれるであらうか。

我々は、自らの未来を建設することができる。しかし「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなしい（詩編127:1）」とは真実である。

人それぞれが、それぞれのやり方で建設するのは、確かに正しい。（パウロが植え、アポロが水をそそぐこともあろうが）しかし、もし独力でことをなそうとするならば、真の意味での建設は決してできない。

人類すべての出来事を支配しておられる神の存在があるのである。奇しくもシェイクスピアは「結局最後の仕上げは神がする、つくづくそう思う。荒削りはいくら人間がしてもだ」と言った。まさに与えるのも主であり、取り上げるのも主であるのだ。

このクリスマスの時、私たちは自らの手に最大の贈物をしようではないか——キリストのような生活という贈物を。イエスは現世でも来世でも、救い主であられる。主が「成長させて下さる」のである。

世が主を拒み、あざけるとも、主はこの世より大いなる者であられる。世の知者たちが嘲笑するとも、人の知恵は減びるであらう。神のみことと知恵のみが、時代の波に耐える深さを持つのである。

ペテロが、キリスト以外には救いはないと教えた時、彼は私たちが認識している以上の深い意味で語ったのである。

創り主として、イエスは宇宙を支配しておられる。イエスは嵐をしずめることもできる。主に仕えさえすれば、主は天の窓を開いて、あふれるばかりの祝福を注いで下さることもできるのである。これこそ進歩の道、豊かな生活への道であり、平安と幸福への道なのである。私たちはこれを受け入れるだけの知恵を持っているだろうか。

このクリスマスにあたり、私たちは主を文字通りに受け入れ、へりくだって主のみ名を受け、肉体的にも、経済的にも霊的にも救いにあずかるうではないか。

1. 「ヴェニスの商人」ウィリアム・シェイクスピアによる戯曲
2. ソクラテス（470—399 B C）古代アテネの哲学者
3. コロンブス、クリストファー（1451—1506）スペインに仕えたイタリアの海洋探検家、アメリカを発見
4. チャーチル卿、ウィンストン（1874—1965）英国の首相（1940—45, 1951—55）
5. ダーウィン、チャールズ・ロバート（1804—52）イギリスの自然主義者
6. ブラウン、ワナー・フォン（1902— ）ドイツ生まれのロケット技術者
7. ローウェル、ジェームス・ラッセル（1819—91）アメリカの詩人・評論家・外交官

わかちあう

クリスマス

私はホーマーが、私の覚えているずっと以前からブーツをほしがっていたことを知っていた。その時彼は11、私は10歳で、幾晩も小屋の中で青いふとんにくるまりながら、本物のブーツがあったらどんなにすてきだろうと話したものだ。いばらの茂みも歩けるし、ガラガラへびもよけられる。それに馬に乗る時もはけるブーツ。私たちは、皮はこんな皮を使ってデザインはこんなふうにと、いろいろ思いめぐらしていた。

しかし、それがただ話だけのことだということは承知していた。不況で父の仕事は苦しく、通学靴さえいつもおさがりの底がすりへったものだった。

私たち2人は両親のために学校で手製のプレゼントを作ったし、その年のクリスマスもいつものように楽しいクリスマスになるに違いなかった。プレゼントを買うお金は一銭もなかったが私たちは小さい頃から母親に感化されていた。母は人に物をあげることが好きで、その人にぴったりのプレゼントをして喜ばれることを考えると、家族のみんなもそれに連れ、楽しくなるのだった。私たちは自分のあげる物が人がどんなに喜んでくれるかを楽しみ

に、かたずをのんでその時を待ちわびた。自分のプレゼントを作っている時も隠す時も内緒という決まりになっていた。みんなわかっているし、秘密というには大げさだが、ただ、どんなに捜しても隠し場所のみつからないのが祖母のプレゼントだった。祖母のプレゼントはクリスマスの朝に魔法をかけて出したような、いつも思ったより高価な物だった。

そのクリスマス、私が4年生の時に作った羊皮紙のような紙のランプの傘を母がとても喜び、父も私が自分でこねて焼いた粘土の宝石箱を大変ほめてくれたので、私は満ち足りて幸福だった。ジルとエマロウは、洗濯バサミを削って作った人形を喜んでくれたし、ホーマはベーゴマと取りかえてもらったスカウト・ピンを気に入ってくれた。それから、祖母がプレゼントを渡し始めた。

私のは重くて四角い包みだった。その年私は病院に入院して、クリスマスの時は松葉づえをついていたが、組み立てのできる建物セットがもらえたらどんなにすばらしいだろうと考えていた。祖母は子供たちの心を読む術を心得ていたので、プレゼントはきっとそ

れに違いないと思った。しかし、包みは違っていた。それは皮の匂いも強烈な茶色のブーツだった。

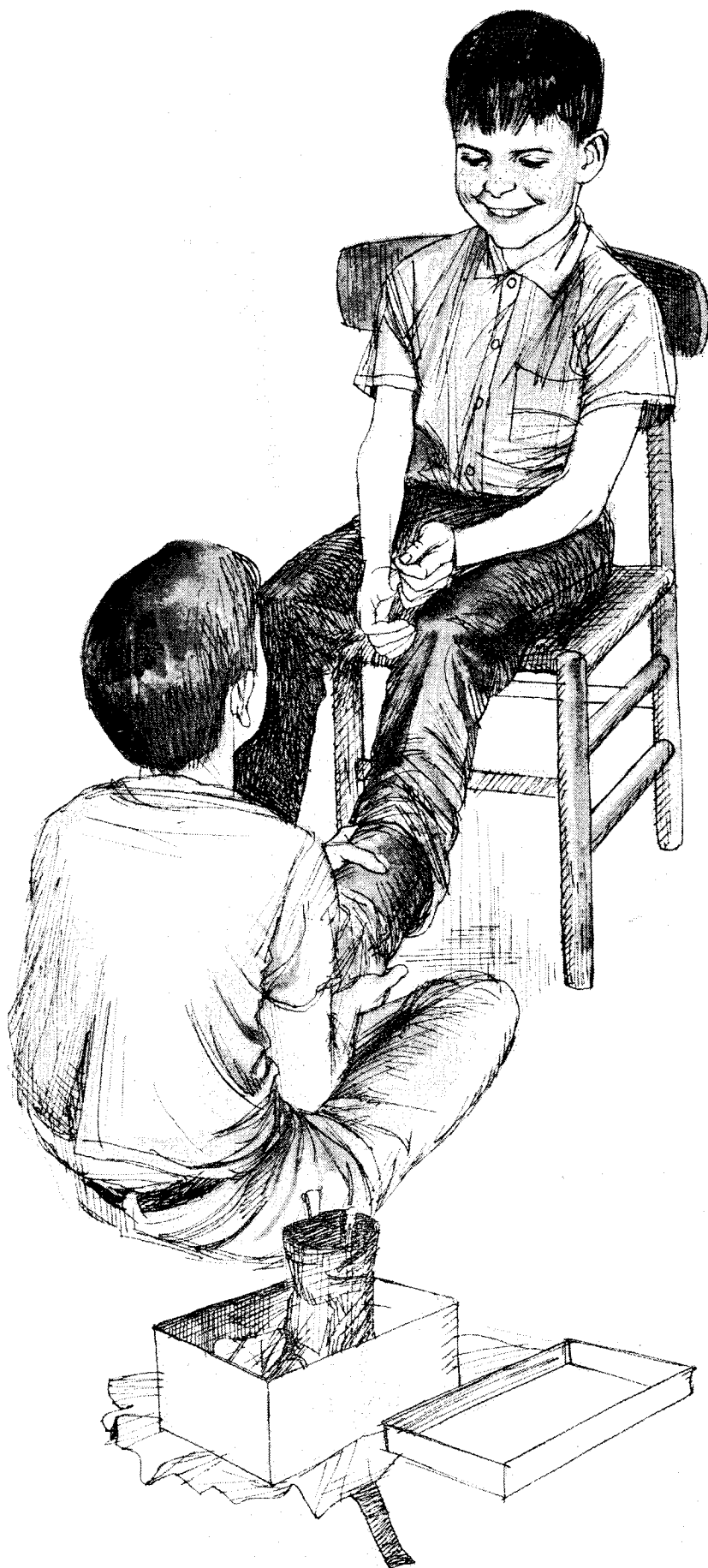
私はすぐさまホーマーの包みを見た。彼の包みはセーターだった。ホーマーは秋に着るセーターをほしがっていた。私はホーマーが見に来る前に箱を隠してしまっていた。私はブーツをほしくはなかった。ブーツはホーマーがもらうべきだった。ホーマーは見せてと寄ってきたので、私は口を開いた。「ごめんね、ホーマー。」

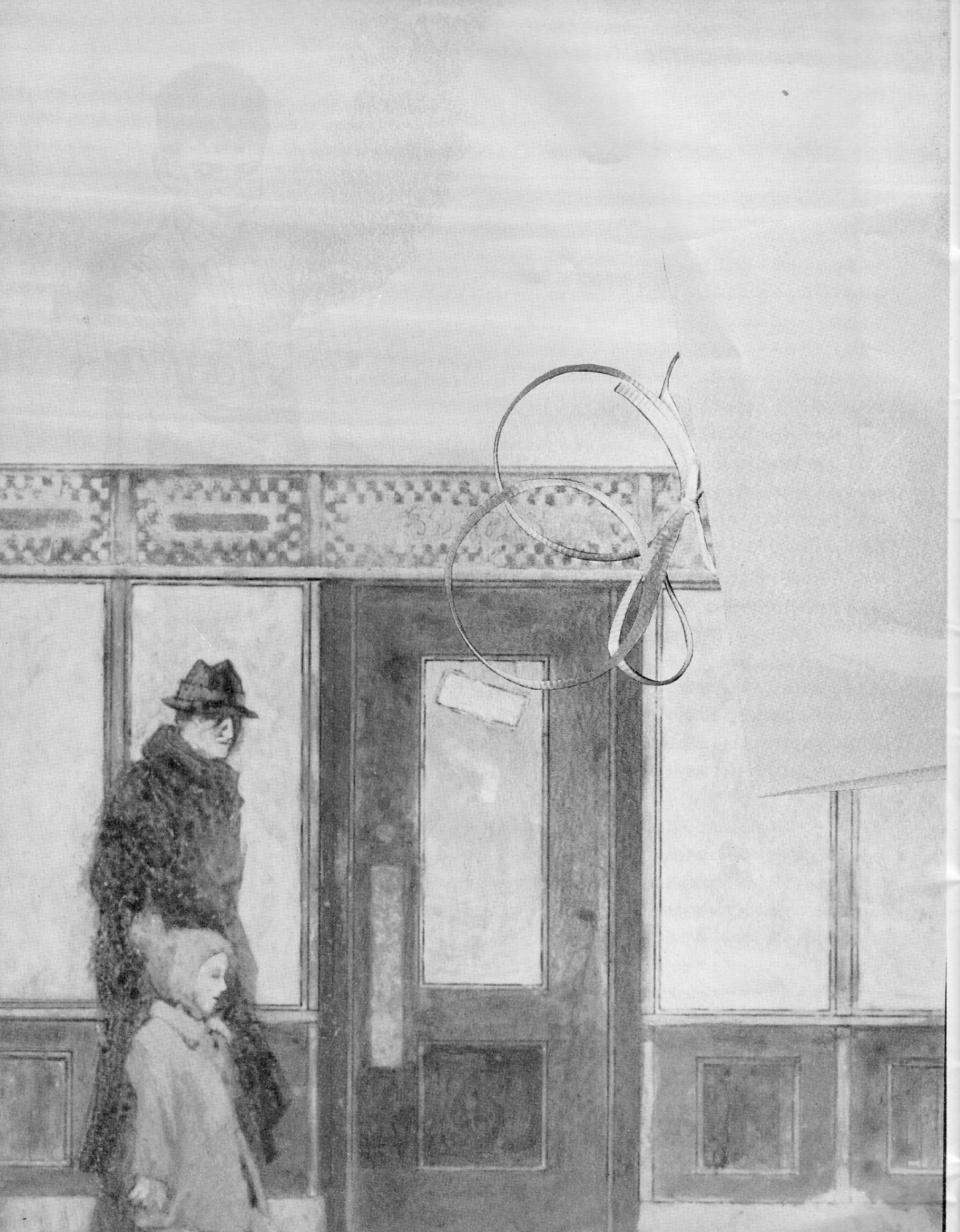
しかしホーマーはにこっと笑って叫んだ。「ほら、みんな、リチャードのプレゼント見て！」彼は箱からブーツをさっと取り出し、まるで宝物のようになでさすって私の足もとにすわり込み、私の半分底のすりへった靴を脱がせ、新品の立派なブーツをはかせてくれた。

私はブーツのはき心地がどうだったかも、どんなブーツだったかも覚えていない。しかし兄が私のために喜んでくれたことで、そのクリスマスは今も心にあざやかに残っているのである。

リチャード・ワーナー

エマロウ・ワーナー・ティン
に語った話。





忘れない,覚えているわ

マージョリー・B・テイラー

私が6歳の少女だった時、感謝祭のすぐあとで、クリスマスには大好きな人たちみんなに好きな物をあげたいと思った。でもお金がなくて何ができるだろう。すぐによい考えが心に浮かんだ。「ママのお得意料理のすてきなキャンデーの作り方を写して、本を作ろう。それを通りのこっちと向こうのお隣りさんに売れば、大好きな人たちにあげるプレゼントのお金ができるわ。」

毎晩、自分の用事を終えると急いで部屋に閉じこもり、一番好きなキャンデーの作り方をしんぼう強く書き写した。人形のリボンを切り取ってページを結んだ。そして古い雑誌から丁寧に絵を切り抜き、母から作り方を教わった小麦粉ののりを使って、一つ一つの本にはりつけた。とうとう10冊の本ができあがった。翌日は1日ばかりで売るつもりでいたが、一時間もたたないうちに全部売り切れてしまった。私は急いで家に帰り、父が時間をみつけて買物に連れて行ってくれる時まで、たんすの引出しにお金をしまっておいた。

私は何とやさしくしんぼう強い父を持っていたことか。12月のあるさわやかな朝、朝食のあとで父は「きょうは2人でクリスマスの買物をしよう。でかける用意はできているかい」と言った。

私は買物のリストをもう作っていた。「ええ、もちろん」と答え、急いで二階へ行って、リストとお金を持ってきた。

その数分後、私たちは雪の積もった歩道を手をつないで歩いていた。父が

1歩あるくごとに私は3歩あるいた。子供にできる最もすばらしい外出であった。飛ぶように歩いたので、おしゃべりをする暇はとてなかつた。

マーケットに着くと父は言った「ここで買えるものだけにするんだよ。」

「でもお父さん、ここではキャンデーとガムを買うだけよ。私のしたいプレゼントは売ってないでしょ。」

「いろいろな人にすてきなプレゼントをあげたいのだろうが、そんなお金は持っていないだろう。」父は言った。「買ったかった物と同じようにすてきなプレゼントが、ここでもきっとみつかるとよ。」

それを聞きながら、私の目には落胆の涙が浮かんだ。私はずっと前から一生懸命に働いた。大好きな人たちにあげたい物はそのお金で大丈夫買えるはずなのに。

「きれいな本を自分で作った時に、もう、大好きだという気持ちをプレゼントしたんだよ。いまは、買える小さなプレゼントを捜して、大好きですという気持ちを包んで、クリスマスのリボンで結びなさい。どんな人もあげられないような、一番すばらしいプレゼントになるよ」と、父は言った。

愛が、銅貨では買えない高価なプレゼントだという、偉大な真理を私に教えてくれた父に恵みがあることを。

「マージョリー、そのことを忘れないね？」父は尋ねた。

私は涙をぬぐい、父の顔をみあげてほほえみ、言った。「忘れない。いつも覚えているわ!」

マ リ ヤ

メアリー・プラット・パリッシュ

キリストがお生まれになる 120 年前ひとりの天使がベンジャミン王のもとに現われ、イエス・キリストの母になるマリヤについて話しました。それよりもおよそ 475 年前にニーフアイは幻の中にマリヤを見て、「すべての処女の中で最も美しく清らかな処女である」と言いました。それよりおよそ 100 年前、イザヤはマリヤについて予言をし、次のように言いました。「おとめがみごもって男の子を産む、その名はインマヌエルとなえられる。」

生んだ子どもがイエスさまだということだけでマリヤのことはよくわかりますが、マリヤがこの地上でどのようにに生活したかはほとんどわかっていません。私たちはマリヤがどこでいつ生まれたのか、父親と母親はだれなのか確かなことを知りません。私たちが知っているマリヤは、若いころナザレに住んでいて、ヨセフのいいなづけだったということです。そのころ、少女はたいへん早くから婚約し、ときには幼いときに婚約しました。そして結婚できる年れいになるまで、待ったのです。ですからマリヤも天使のガブリエルが現われたときはまだ若かったことでしょう。マリヤのことを、「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」と言う前からガブリエルはこう言いました。

「あなたは神から恵みをいただいているのです。見よ、あなたはみごも

って男の子を生むでしょう。その名をイエスと名づけなさい。彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。」

この言葉を聞くとマリヤはとても不安になって、このあいさつはなんのことだろうと思いました。「どうしてそんなことがあり得ましょうか。わたしはまだ夫がありませんのに。」

するとガブリエルは言いました。

「聖霊があなたのところへ来て、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。」

そのために生まれ出る子は聖なるものであり、神の子となえられるでしょう。

マリヤがいぶかしげな顔をしたのでガブリエルはさらに続けました。「ごらん、あなたのいとこのエリサベツも老年ながら子を宿しています。彼女は子どもを生めないといわれていましたが、もう 6 カ月になっています。神には、何でもできないことはありません。」

そこでマリヤが言いました。「お言葉どおり、この身になりますように。」

ヨセフは、まだ結婚していないのにマリヤに子どもが生まれると聞いて、悲しくなりました。そしてずっとマリヤを愛するためには、とても勇気がいりました。またマリヤも、自分に起こったことが信じられないようなふしぎなことばかりだったのでとてもヨセフ

にそれを話すことはできなかったことでしょう。聖書には、ヨセフがとても悩んでいたと書いてあります。そしてヨセフはとうとう、マリヤをユダヤの遠い山里へ急いで行かせたのです。というのはそこにはマリヤの言うことをいつもよく聞いてくれるエリサベツがいたからです。ところが何とおどろいたことでしょう。エリサベツにも赤ちゃんが生まれるというのです。

マリヤは 3 カ月エリサベツのところにいました。このとても重大なときにマリヤはそこにずっといて、ヨセフが帰って来なさいと言うのを待っていました。そのころ、結婚しないで子供ができると、石を投げつけられました。しかし、マリヤは何も罪を犯していなかったと思いました。それは身ごもっている子供は神様の子供であるを知っていたからです。マリヤはヨセフがわかってくれないうちにナザレに帰るのはとても恐ろしい気がしました。でも、強い信仰を持っているなら、何もこわいものはないと思いました。イエスさまは、「わたしの思いではなく、みこころのままにしてください」と言われましたが、それよりもずっと前にマリヤもこれと同じことを言いました。ヨセフはマリヤに自分にも天のみ使いが現われたことを話しました。そのとき、マリヤはどんなにうれしかったことでしょう。

「ダビデの子ヨセフよ、心配しない



マ リ ヤ

でマリヤを妻としてむかえるがよい。そのからだに宿っているものは聖霊によるのである。彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、民を罪から救う人となるでしょう。」

それからはマリヤは、神様がとても大きな祝福を与えてくださったことを喜びました。「力ある方が、わたしに大きなことをして下さいました。」そして子供が生まれるのを楽しみに待っているといました。しかしその日が近づいたとき、困ったことが起こりました。というのはどの町に住んでいる人も、税金をはらわなければならないというおふれがアウグスト皇帝から出ていたからです。ヨセフとマリヤはダビデの子孫であったので、2人はすぐに岩だらけの道を通して、150キロはなれたベツレヘムへ行かなければなりません。もし1日20キロ行けたとしても、7日かかります。身重のマリヤにとってそれはつらい旅だったにちがいありません。

イエスさまが生まれるまでマリヤがどのくらいベツレヘムにいたかはわかりません。数時間だったかも知れないし、数日間だったかも知れません。しかしマリヤが馬小屋にとまったということはわかっています。その馬小屋は、主イエス・キリストが「布に包まれて寝ている」というみ使いの証を羊飼いたちが聞いて、やって来たところです。4日後、マリヤとヨセフがイエスさまを神殿に連れて行くと、シメオンとアンナが聖霊の力に導かれて、その子供は長い間待ち望んでいた救い主であると大声ではめたたえていました。その人たちはさらに、羊飼いたちが追いつけた星の人はイスラエルの王となるべき人だと言いました。するとヘロデ王はこのことを聞いて、不安を感じました。ヘロデ王は、ベツレヘムにいる2

才以下の男の子はすべて殺せという命令を出しましたが、このことからヘロデ王がイエスさまがお生まれになったということをかたく信じていたということがわかります。

これらのことはすべて、イエス・キリストが文字通り神の御子であるというマリヤの証を強めました。

マリヤのキリストの母としての役目はふつうの人とはちがっていました。マリヤはイエスさまの母であり、イエスさまを産む責任があり、めんどろを見、いろいろなことを教えました。イエスさまはマリヤの神でした。「この人による以外に救いはない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。」という言葉は、マリヤの心をおだやかにしました。この変わった関係の中で、イエスさまはマリヤを尊敬していました。マリヤが神殿の中でイエスさまを見つけて、いっしょにナザレに帰るように言うと、イエスさまはその言葉に従ってもどりました。それからカナで結婚式のお祝いがあったときに、イエスさまはマリヤの望みを聞き入れられました。また十字架にかけられたとき、イエスさまは愛する弟子たちにマリヤの世話をするようにたのみました。

そしてマリヤも御子をほめたたえました。マリヤはイエスさまがこの世のただひとりの救い主であるということを知って喜びました。人に水に沈めるバプテスマを施した宣教師を子にもったことがある母親ならどんな人でも、マリヤが知ったこの喜びをわずかでも味わったことでしょう。マリヤのほかには、死からよみがえる力を持った子どもを持つ喜びを知っている人はありません。十字架にかけられ、お墓に埋められてから3日後にイエスさまは生き返りました。イエスさまのおかげです

べての人がいつの日か生き返ることができるのです。そのような子供をもったマリヤは何とすばらしい祝福を受けたことでしょう。

マリヤはひどく悲しいこともありました。マリヤはイエスさまが永遠の父の御子であるということを知っていたので、なぜイエスさまが人々から軽べつされ、迫害されるのかとても理解できなかったにちがいありません。なぜヘロデはイエスさまを殺そうとしたのでしょうか。イエスさまを子供のときから知っていた近くの人々はなぜイエスさまを受け入れようとしなかったのでしょうか。マリヤは知っていたことです。イエスさまが自分は救い主であると言ったために、なぜ人々は殺そうとして、丘のきりたったがけに連れて行ったのでしょうか。イエスさまは神様がよいというときが来るまで死なない力を備えていたので、そこから逃げました。おそらくマリヤは十字架の下に立って、イエスさまが生き返るかも知れないと思ったかも知れません。しかしマリヤはどう問にかけられた御子の体がだんだん弱くなっていくのを見て、イエスさまは死ぬということを知りました。マリヤはそのとき神殿の中でシメオンが言った予言を思いだしたにちがいありません。「そして、あなた自身もつるぎで胸をさしつらぬかれるでしょう。」それほどマリヤの悲しみは大きかったです。イエスさまはその母と愛する弟子とがそばに立っているのをごらんになって、マリヤに言いました。「婦人よごらんください。これはあなたの子です。」それからこの弟子におっしゃいました。「ごらんください。これはあなたの母です。」その時から、この弟子はイエスさまのおかあさんを自分の家に引きとったということです。

ある大学生の決心

アーサー・R・バセット

教会内には、大学時代に伝道や兵役、また宗教全般についてむずかしい決心を迫られ、それで初めて宗教と真剣に取り組んでいる若人が多い。教会初期の数少ない指導者の1人であったロレンゾ・スノーも、正式な大学生として教育を受ける機会があり、学生時代には同じような重大な局面に立ったことがあった。

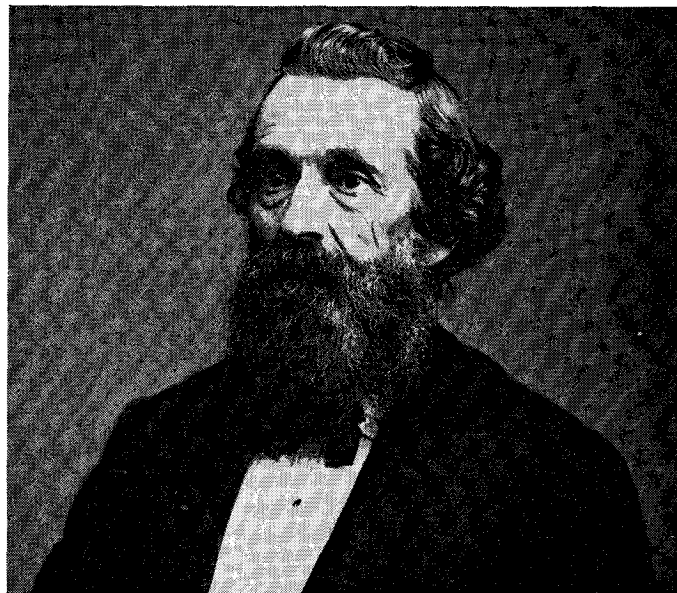
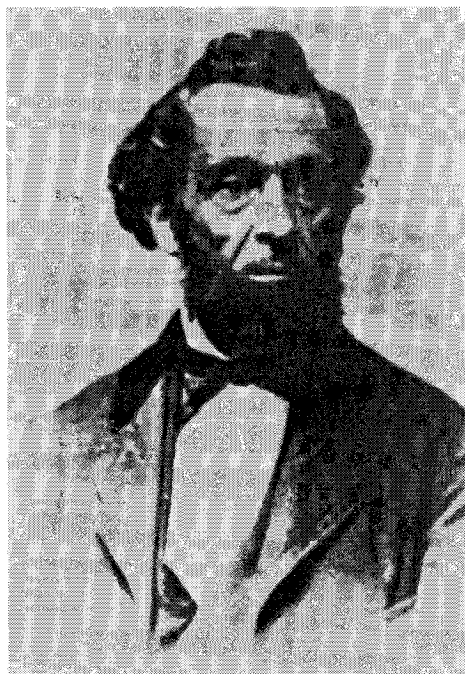
スノー大管長は、当時最も関心の高かった大学の1つであるオーバーリンに席をおいていた。オーバーリンは長老教会派の大学で、その進歩的性格から、いち早く国中の評判をかっていた。たとえばオーバーリンは、男子と同水準に

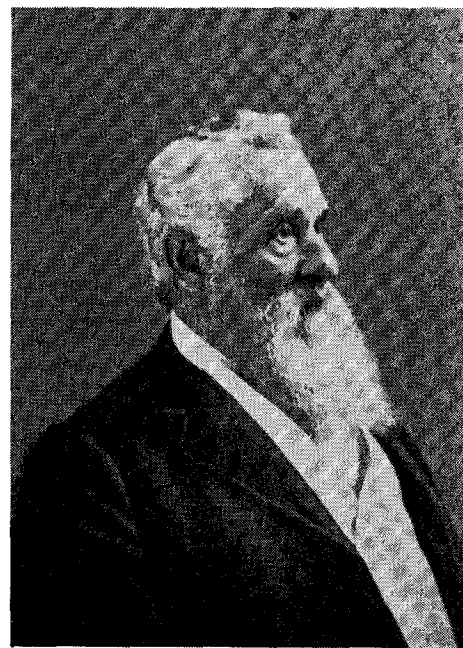
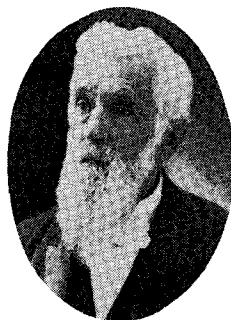
なって女子の入学を認めた、アメリカで最初の男女共学の学校であった。1830年、奴隷制度の問題に関心を持ったある著名な若者のグループが、この奴隷制度の慣習に反対して団結した。シンシナチ市のレーン神学校で反対にあって不満をつのらせた彼らは、1836年オハイオ州のオーバーリンヘグループで移動してきた。そして、当時最も著名であった牧師の1人であるチャールズ・フィニーを神学の教授としてオーバーリンへ来るよう説得したのである。これらのことが起こったほとんど同時期に、ロレンゾ・スノーはオーバーリンに通学していた。

ロレンゾは、彼自身の言葉によれば「輝かしい期待と自由な大学教育を得て、自分の野望を果たそうとの、この世の大望に満ちた若者」のごとく、大学へ通った。ロレンゾは、裕福な家の出だったので、多くの富裕な、また立派な友だちや親戚を持っており、それらの人々は、皆ロレンゾが生涯のうちに榮譽を受けるであろうと熱心に見守っていた。ロレンゾは、当時尊敬されたすべての青年と同様に、生活の中で、敬神の念と宗教的関心を養うよう期待された。にもかかわらず、大学内でたまたま起きた事件を見て、ロレンゾは姉のエライザにあてて、「オーバーリン大



各方面で活躍し始めた頃のスノー大管長

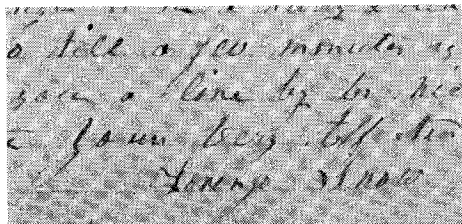




スノー大管長

学で、もしこれ以上のことが見いだせなければ、すべての宗教とおさらばだ」と書いた。

エライザはいつも弟のかたわらにあって、弟が軍事に興味をもっていることで心を痛めていた。アメリカの第二次独立戦争の終幕にあり、ナポレオン時代の最中であった1814年に生を受けたロレンゾは、軍人生活の魅力にひかれていた。エライザは、どこか外国の戦場で弟の一生が短く断ち切られるのではないかと常に案じていた。



スノー大管長の署名

ロレンゾ・スノーの略歴

(1814—1901)

	年令	
1814	4月3日	オハイオ州マンチュアで生まれる
1831	17	母親、教会に加入、ジョセフ・スミスのお話を聞く
1835	21	オーバーリン大学入学、姉エライザ・R教会加入
1836	22	バプテスマを受ける
1837	23	オハイオ州で伝道する
1838—39	24—25	ファーウェストへ移住、ミッドウエスタンスターキ部で伝道する
1840—43	26—29	英国への伝道、ヴィクトリア女王にモルモン経を贈る
1845	31	結婚
1846—48	32—34	大平原を渡る
1849	35	使徒に聖任される
1849—52	35—38	ヨーロッパへの伝道
1853	39	ブリガム市の開拓民を管理する
1872—82	58—68	ユタ准州議長になる
1873—77	59—63	ブリガム・ヤングの副管長になる
1885	71	米国北西部インディアンへの伝道
1886—87	72—73	多妻結婚のかどで11カ月間服役する
1889	75	十二使徒評議会会長となる
1893	79	ソルトレーク神殿長となる
1898	84	大管長として支持される
1899	85	什分の一を強調する
1901	10月10日	87 死去

しかし、エライザの心は宗教的関心に向けられていった。エライザとロレンゾの母親は、すでに教会に加入しており、ロレンゾがオーバーリンに滞在中、オハイオ州のカートランドへ移住した。ロレンゾもまたモルモニズムに満足を見いだすかもしれないと感じたエライザは、ロレンゾをカートランドへ連れて来る機会をうかがった。カートランドへやって来て、ロレンゾが予言者ジョセフ・スミスを知り、その影響を受けるに違いないと感じていたのである。

1836年、その機会が訪れた。その年ジョセフ・スミスと教会の他の指導者は、予言者の塾を始める仕事に携わっていた¹。初期のアメリカにあって教育で尊敬を受けるには、どの学者もヘブライ語とギリシャ語を学ぶ必要があった。ロレンゾはオーバーリンでちょうど古代言語の研究を終えたばかりであったが、ヘブライ語は修得していなかった。そこでヘブライ語の学者であるジョシュア・セイクス博士が予言者の塾を教えることになったのを知ったエライザは、弟にカートランドへ来てヘブライ語を勉強するよう呼んだ。ロレンゾは承諾した。ロレンゾはすでに姉が自分のものにしてた宗教に多少の好奇心をいだいていた。がしかし、カートランドへ旅することによって、自分の生涯にどのような変化が起きるかなどは恐らく夢想だにできなかったに違いない。

ロレンゾは、教会の大祝福師で予言者の父であったジョセフ・スミス・シニアに最も深い印象を受けた。ロレンゾは、なお自分の自尊心や世間の野望と戦わねばならず、自分が霊的な戦いのとりこになっているのに気づいた。ロレンゾは、予言者がしばしば「聖霊に満たされて天使のような声で語り、神のみ力に満たされ」全身が輝きわたり、「吹き払われる雪の白さ」に見

える程にその顔が光り輝くのを目にした。

ロレンゾの霊はそれに応じた。だがまた彼の心はためらった。ロレンゾの友人や親戚は、彼の輝かしい未来を予期しており、もし彼がその期待を裏切って、当時貧しくて、無知で、軽べつに値するとみられていた「モルモン」に加わるとしたら、その人々はどう思うであろうかと考えた。

父スミス（予言者の父）は、若きロレンゾの悩みを察し、時おり彼に次のように忠告してくれた。「案じなさんな。せかずにやりなさい。そうすれば主はその偉大な末日のみ業が真実であることをあなたに示されるでしょう。そうしてあなたは、バプテスマを受けたいと望むようになるでしょう。」最初この言葉はロレンゾを驚かしたが、彼が主を求め続けるうちに祝福師スミスの約束は成就された。ロレンゾはバプテスマを受けた。だが彼はまだ宗教的に不完全だと感じた。ロレンゾは、すべての疑いを払ってくれる以上の何かを求めた。以前受けた以上のみたまによる大いなる確証を望んだ。

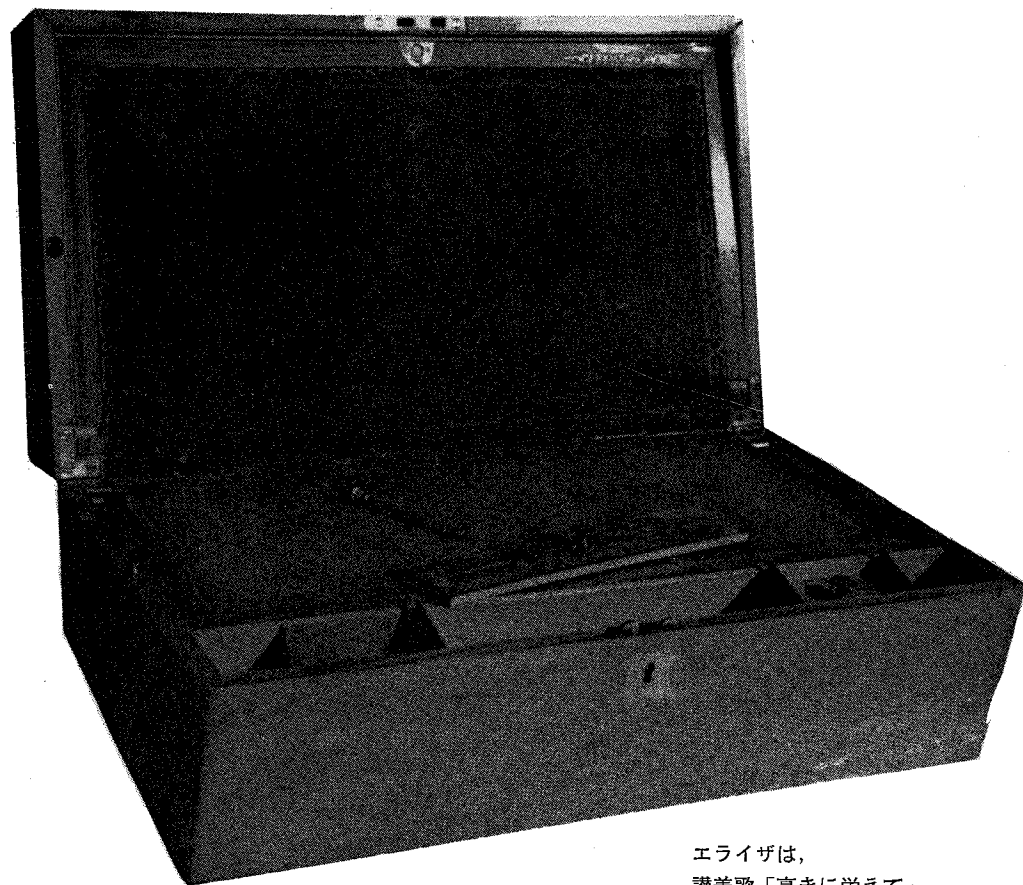
バプテスマ後2、3週間して、ロレンゾは望んでいた確信を得たが、それは予期していた方法によるものではなかった。福音に対する最初の証を求めていた間、ロレンゾは、毎晩家の近くの森へ行って、主に祈り求めた。ある

晩、ロレンゾは祈る気持にはなれなかった。天が頭上で閉じられたように感じた。ロレンゾは言っている。しかし、祈る気持になれなかったとはいえ、いつものように祈る場所へ行った。

祈っていると、ロレンゾは、神のみたまでからだを完全に包まれ、以前には経験したことのないほどの喜びで満たされるのを感じた。バプテスマの水で沈められた時よりも、からだの器官に「もっと現実的にまた肉体的に力が及ぼされる」ような方法で聖霊の力（で



ロレンゾ・スノーの姉であるエライザ・R・スノーの衣服



エライザは、
讃美歌「高きに栄えて」
をこの机で書いた。

沈められたの)を感じた時、ロレンゾの心からあらゆる疑念が取り払われた。

ロレンゾは、神と福音の回復について知りたいと望んでいたことを知った。そしてこの知識は、世間が与えることのできるあらゆる富や名誉にもまして、ロレンゾに大いなる値を与えてくれるものであった。ロレンゾは、信仰をもって聖徒らと運命を共にする決心をし、その信仰に対する応えに望んでいた心の平安を得たのである。

だが、いかなる戦いも1つの戦場のみに勝利は得られない。ロレンゾもまた、あらゆる人と同じように、霊的に成長するために戦い続けねばならなかった。ロレンゾの次の戦いは、宣教師として働いた多くの人が知り、かつ感謝していることにあてはまるものであった。

大管長会の一員で、以前牧師であっ

たシドニー・リグドンは、教育の重要性を認めて、ロレンゾに学校を続けるよう励ました。だが、かつてオーバーリンの学生であったロレンゾは、心に別の目標をいだいていた。ロレンゾにとっては、他人に福音をのべることはとても恥ずかしくて、非常に案じられることであったが、それでもなお、他人と福音を分かちあいたいという望みで心が燃えたと言っている。それは、ロレンゾにとって、なしうる最も大切なことだったのである。

その頃、長老定員会の会員になりたいと思う者は名前を提出するよう要請した声明が大管長会から出された。もし大管長会が承認すれば、聖任されるはずであった。ロレンゾは名前を提出しており、「役職や召しに対し、自分の名前を提出したり、懇請したりしたのは、生涯のうちでたった一度だけであった」と語っている。

1837年春、ロレンゾはオハイオで伝道する意図をもって、財布も袋も持たず1人で宣教の旅へ出た。(ルカによる福音書10:4)これは教養のあるロレンゾにとって生涯のうちで一番きびしい試練となった。

「財布や袋、特に財布を持たずに出かけることは、自立心という私の生まれつきの心情にとってそれはかこくな試練であった。なぜなら、充分働ける年頃になって以来、『自分で支払うんだ』という意識が自尊心にとっていつも必要な属性なのだと考えてきたからである。だが、ほかの何物でもなく、神が古えの僕ら、イエスの弟子たちに求められたように、今もそれを求めておられるのだという確かな知識だけが、生活のかてを善意の人々に頼る旅へと私を立たせたのであった。だが、この点について私は自分の義務をはっきりと悟っていたので、そうしようと思った。」

自分の心にある関心と、主への信頼とから、スノー長老は最初の伝道に旅立った。ロレンゾはおばを訪れ、それから約30マイルほど旅した。ちょうど日が暮れかかり始めた頃、モルモンの長老として初めて公式に訪問したが、その夜の宿泊を断わられた。8回目の訪問でやっと宿泊を許されたが、それは、「夕食なしでベッドに入り、朝食ぬきで朝のうちに外へ出る」ものであった。ロレンゾにとって、これが伝道への序曲であった。だがロレンゾは、聖徒らと一緒にミズーリ州へ移るまで、自分の出生地で忠実に伝道の仕事を果たしたのである。

1838年の秋には、長い夏でからだを悪くしていたとはいえ、ロレンゾの心は伝道の召しの精神で非常に駆りたてられ、伝道の業に従事したいと切に願うようになっていた。ロレンゾは力が尽きていたが、もし主のみ業のために旅立つよう努めるなら、神は必要な力

をお与え下さると感じた。(教養と聖約4:2)そこで、両親の忠告や願いとは反対に、福音を分ちあうため旅立ったのである。

最初ロレンゾは、わずかな距離しか歩くことができず、やむなく腰かけて休んだ。だが次第に力を回復し、全く健康を取り戻すまでになった。

この伝道の旅の間、ロレンゾは4つの州で働いた。2月、ロレンゾはケンタッキー州にいて、深い雪の中を500マイルも旅してオハイオ州に戻る準備をしていた。ポケットにはわずか1ドル25セントしかなかった。だがロレンゾは、主が備えて下さるという心からの信仰をいだいていた。

この帰途の旅は困難なものであった。旅の間ほとんど、ロレンゾの靴下は、泥、雪、雨でずぶぬれになり、たき火をすることなく宿を見つけられるとすれば、それは幸運なことだったのである。若い宣教師はこの旅ですっかり衰弱し、オハイオ州の友人のところへ戻った時は、ロレンゾだと見分けがつかないほどだった。友人の世話のもとに、高熱で弱りはてたロレンゾは、

幾日もベッドに倒れていた。

ロレンゾ・スノーの初期の伝道は、以上のようなもので、それはその後起こる多くの事柄のはんの始まりに過ぎなかった。翌年ロレンゾは英国へ行った。海上で42日間も嵐にあった。ロレンゾはおばにあてて、嵐のことを次のように書いた。

「おばさんの豊かな想像力で、恐ろしい嵐の中での僕を考えてみて下さい。水の入った大だる²に腰かけ、両手を近くの綱にゆわえてもちこたえている姿を。船は揺れに揺れ、時々船側を乗り越えて大波がやってきては、甲板にいる人々にシャワーを浴びせたのです。想像していただけますね。私のそばにすわっていた男の人は、顔をこわばらせ、ひどく泣いていました。次の瞬間、波は船側を越えてその男の人を襲い、男の人は席から投げ出され、反対側へ打ち上げられてしまったのです。彼は腕を折り、ずぶぬれになって立ちあがりました。」

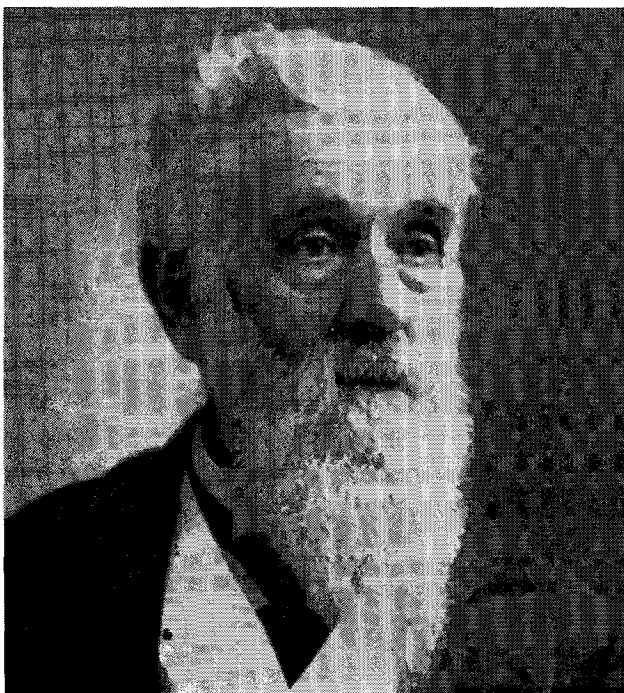
甲板の下では、箱がこわれてゆるみ泣き騒ぐ婦女子の間をころがり回っていました。しかし、その間スノー長老は

平静な心で満たされていた。主の使命を帯びていたからである。この光景は使徒パウロもそうであったが、ルカが描写したのによく似ていた。事実、伝道について言うなら、ロレンゾ・スノーは、パウロのように多くの困難を味わった。スノー長老の伝道は、英国に続いて、イタリア、スイス、マルタ、ハワイ、そして聖地(エルサレム)で行なわれた。伝道が終わる前に8回も大洋を横断し、15万マイル以上も旅し、それを全部自分の費用でまかしたのである。

スノー大管長について多くのことが思い出される。その紳士的な振舞い、主に対する心からの霊的な献身、植民地開拓者としてのすぐれた能力、教育者としての評価など。しかし、すべての他の徳にもまして、特に伝道に対する一段とすぐれた働きが思い起こされる。世界的に伝道を推進したことは、スノー大管長の教会運営の中で、大きな進展を示したものの1つであった。5カ月から6カ月の間、他のステーク部で働くようMIA宣教師さえ送り出した。福音を教えるのに日本の地を開くようヒーバー・J・グラントを任命した。スノー大管長は、ロシアやオーストリアへも福音が携えられてゆくよう表明した。教会運営の最後の年、世界中で伝道するよう1千人以上の宣教師を召した。それは教会史上かつてなかったことであり、その後の20年間にも見られなかったことである。

ロレンゾ・スノーが、多忙な若い大学生として宗教をもし選ばなかったとしたら、何が起こり得ただろうか。数えきれないどんなに多くの人々が、福音を受け入れる機会を失っていたことであろうか。

1. 1832年12月27日に与えられた啓示に従って1833年カートランドで組織された(教義と聖約88:127)
2. 63ガロンも入るたる



この写真はロレンゾ・スノーが大管長だった時に撮影したもの。今日最もよく私たちの目に触れるものである。

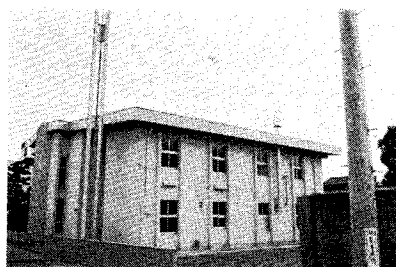
福岡に3つの教会建物

本年4月に着工し、完成を待たれていた福岡支部、伝道本部、伝道部長邸がこのほど完成いたしました。特に福岡支部は九州初の礼拝堂で、20年来福岡の聖徒達が待ちこがれていたものだけに、今回の完成には言い尽くせない大きな喜びがあります。

この建物の建築とほぼ同時に、福岡の地においてさらに九州の地において家族の改宗が増えています。

私達はこれら3つの建物を、この地において改宗した先輩の信仰と証の賜として感謝すると共に、私達自身の心の中にそれと劣らぬ信仰を持ってこの地にシオンを建てるよう努力しなければならないと思います。

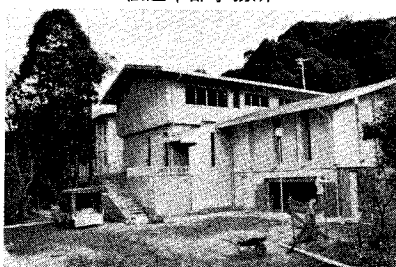
今後この建物は、さらに多くの人々を真理に導き、九州の地にステーキ部を生み出す原動力となるに違いありません。



福岡支部



伝道本部事務所



伝道部長邸

秋の運動会

さわやかに晴れわたった10月10日の体育の日、健康と時間に恵まれた中国地方部の各支部の兄弟姉妹をはじめ、宣教師や求道者、合計約120名が集まり、広島島の地において大運動会が開かれました。

同じモルモンとして初対面もなんのそのすぐに打ち解けて紅白にわかれ、各競技に熱戦を繰り広げました。

日頃からトレーニングを重ねてこの日に備えていた会員達はモルモン精神を大いに発揮し、大に走ったり飛んだり食べたりして又親睦を深めました。

いつもはペダルを踏む足も急ぎがちの宣教師による「自転車遅乗り競争」花もはじらう姉妹達の「パン食い競争」、優し

いけれど頼りないと評判の兄弟達による「騎馬戦」など、日常では知りえないお互いのタレントがあらわれ、いろいろな意味で有意義な1日をおくりました。

昼食にはおにぎり、おでんが用意され、お腹一杯つめこみました。本当に全員が一つとなって楽しい時間を過ごすことができました。

この運動会と同じように兄弟姉妹、宣教師全員が力を合わせ、心をつにして、中国地方から一日も早くステーキ部が誕生するよう頑張りたいと思っています。

皆様方の上に豊かなみ恵みと導きがありますようお祈りいたしております。

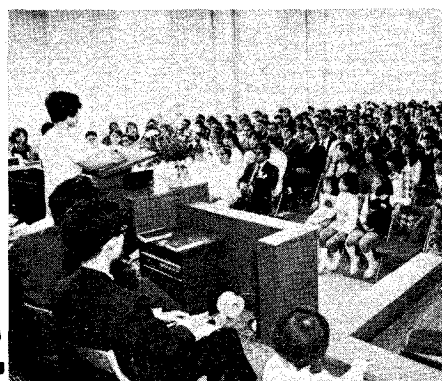
中国地方部





神権者を励ます清水伝道部長

日本中央伝道部



清水伝道部長夫人の話に熱心に聞き入る会員

またまた前進!!

名古屋にもステークスを

この秋の地方部大会は日本中央伝道部のなご一層の前進を印象づけた。

★北陸地方部大会は170名以上の出席をみた。これは先の7月大会以降3ヵ月間に60名以上の多くを数えたことになる。MIA大会(土曜の夜)は非常に活気に満ち素晴らしいものであり、多くの会員に感動を与えた。長老昇進は7名で、多くの人の目をひいた。

★中部地方部大会は351名を数え来年の秋の地方部大会で700名出席のチャレンジを受け、2年後にステークスを組織することを決意した。また新たに中村武地方部長が召された。この地方部大会は新築の名古屋支部礼拝堂で行なわれ、中部地方部の出席会員の称賛的であった。

★四国地方部と中国東地方部は中国四国地方部の分割以来初めての地方部大会ということになるが会員の証は非常に強まっている。四国大会には岡崎前伝道部長も出席されて強い証と温かいメッセージを残され、多くの会員と旧交を温めておられた。

★中国東地方部大会は白鷺城で有名な姫路市で行なわれ、初めての地方部大会にもかかわらず多くの会員の出席があった。

この4つの地方部大会で、地方部長会をはじめ地方部役員が多く召されて地方部の指導性が強調され、多くの支部の新しい会員が指導者として早く成長することが期待されている。出席人数でみる限り、この地方部大会は、神のみ業が「またまた前進」していることを強く印象づけるものであった。

※この大会のハイライトは倉敷支部が開設以来わずか6ヵ月で独立支部に昇格したことであった。住吉正博兄弟が支部長に按手任命された。



四国地方部MIA大会



歓迎を受ける岡崎前伝道部長夫妻



熱演する金沢支部長と姉妹達



北陸地方部長の話に聞き入る会員



中部地方部のフォークダンス

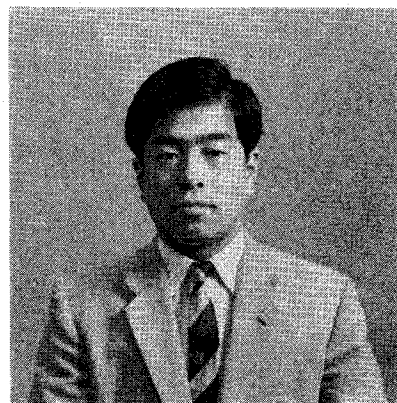


新しい礼拝堂にあふれる会員(中部)

世を正すもの

日本伝道部第二副伝道部長

神 田 治



主イエスが人類の「救い主」であること、「父なる神」の御子であり、私達の長子であること、その示された行ないは私達の模範であること、私達一人一人は誰もが「父なる神」の息子、娘であること、これらを信じて再び御父のみもとへ帰ろうと決心して行動している人こそ世を正す人です。

私達は個人の救いのために現世にありますが、同様に他の人々、社会にもその手を差し出すべきです。主は末日の聖典の中で、

「これを以って、汝らは今の世の人々に悔改めを叫ばんために召さるるなり。而して汝らもし生涯今の世の人々に向けて悔改めを叫ぶことに力を尽くし、唯一人の人たりともわれに導かば、わが御父の国に於て彼と共に汝らの悦び如何ばかりぞや。さて、わが御父の国にわれの許に導きたる唯一人の人につきて汝らの悦び大いならば、汝らもし多くの人を導き来たらばその喜びは果して如何ばかりぞや。」(教義と聖約 18:14-16) と述べられています。

私の知っている若い政治家に、父親がキリストの教えを積極的に家庭の中に取り入れた関係で幼い時から影響を受け、その教えが人類に貢献すると確信し洗礼を受けた人がいます。

彼も同様に勤勉に生活し、自らもその教えに忠実に従いました。彼は父の突然の死によりその議席を確保すべく選挙に打って出ました。

彼は議会において自分の信念を貫き多数の中の1人としてその重責を果たしています。

彼は次のように語っています。「大きな目に見えにくい動きの中で自分の働きはあたかも大海の波にも満たない気持を感じることがある」しかし常に彼の心にあるものは「平和をつくり出す人たちはさいわいである、彼らは神の子と呼ばれ

るであろう」という山上の垂訓の一節です。

人にはそれぞれ現世で異なった試しがあります。同じ試しでも一人一人には異なったものになり、誰もがそれを乗り越えなくてはなりません。誰もが現世の——ベンソン長老の言葉によると「この誘惑と問題に満ち、罪多く、物事がまるで逆に言われている現代を生きていく時、私達は確実に近づいて来る死と」——試練を経験するのです。

その意味で私達に必要なものは強さです。強さは待っているとは与えられません。手と心とを使ってこそ私達にそれが培われているのです。

私は私達の本質は善であると信じています。証を述べるのは善のあらわれです。隣人を大切に、子供を愛し、妻を愛し、親を愛するのは善のあらわれです。「父なる神」を礼拝し感謝するのは善のあらわれです。

私は私達にこれらの善なるものを与えたもうた御方は「父なる神」にほかならないことを知っています。

試しの世を与え、戒めを与え、自由意志を与えられた方こそ主なる神であることを知っています。

私達が現在、持っているもの、感じていることを他の人々に伝えることは大切なことです。

言葉と行ないを通して模範を示すことは主の命じたもうことに一致します。私達がそれら続けるなら、行ないは行ないを、言葉は言葉を生み、この試しの世に主のみ言葉を守る神の子はさらに増加することでしょう。

これこそ悔い改めを叫べとの主のみ言葉です。

主の生きたもうことを心から証し、主の恵みがひき続いて与えられますよう救い主イエスのみ名により、アーメン。

聖徒の道購読料値上げのお願い

1973年1月より、年間1,300円、半年700円、一部売り 130円に変更させていただきます。

クリスマスに思う

東京ステーキ部ひばりが丘支部

当 真 操



孫の秀ちゃんと一緒に

今から10年前のクリスマスでした。ささやかな食事でクリスマスを祝おうと思い、家族はテーブルを囲みました。その時末の子は小学校6年生でしたので、あまりにも貧しい食事を見つめて「クリスマスも、お父さんが生きていた時だけあったんだね」と涙ぐみました。私は心臓を刺される思いでした。

「邦夫、私達は今、神様から試練を与えられているのよ。だから10年あとになったら、きっとあなたがたがお父さんが生きていた時よりも、素晴らしいクリスマスを祝うことができる。それまでくじけないで教会に行ってお勉強し、キリストの教えに従った生き方をするんだよ。」とさとししました。

「おじいさんの時代はすぐにお金持で、立派な生活をしていたのに、災難にあつて貧乏になっている人もいます。小さい時には小学校を出ることもできないで奉公し、くじけないでよく働き、勉強したので、素晴らしい実業家になっている人もいます。くじけてはいけません。お友だちに『あなたがたは貧乏になったね』と言われる時、心を曲げてはだめよ。私はいい、今は貧乏であっても10年あとにはもっとお金持になって見せる。立派な人になってみせるという心がけをもたなければならないんだ」と教えました。その時長女は学校を出て、勤めに入ったばかりでした。彼女は「そうだよ。私たちには今、夜が来ているんだ。人生には夜があつて昼があるように、私たちは今、真夜中なんだ。お母さんには、愛を示そうと思つても何もないのだからできないんだ。お前たちが大きくなって、お父さんがいた時よりも素晴らしいクリスマスを迎えるためには、一生懸命勉強しなければならないんだ」と話しました。次女は高校1年でしたが、「私たちは大学へ行って勉強しなくてはならないんだ。大学に行くには、パスするだけではいけない。奨学金をもらうように勉強しなければいけない」と言いました。兄弟3人「やりましょう。勉強しましょう」と言いました。長男はハワイの大学でした。あとは高校1年、中学3年、小学校6年という子供ばかりだったので、貧しいクリスマスに、心を誓い合つて神の教えからはずれないように、どんなに人に馬鹿にされても、がまんするんだという約束をしました。それから10年の今日、4人も4人、奨学金で大学を出ました。3人は卒業し、10年前にベソをかけた子が、今在学しています。彼も先月から宣教師として豊橋で伝道しています。次男も昨年伝道に行き、今盛岡で働いています。10年前に寂しい思いでベソをかけた末っ子から「お母さん、私は支部長に任命されました。わが家で4番目の支部長です。お父

さんやお兄さんに負けない立派な支部長になろうと努力しています」と便りがきた時、感無量でした。よくぞ成長してくれたと頼もしく思いました。ほんとに長女が言ったように、10年前の私は、真暗やみで、明日は生きられるか、いつまで命が延びられるかという苦しい生活でした。現在、朝日が昇ってきたかのように、私の人生には、素晴らしい楽しみと喜びが満ちあふれてきています。私のおいやめいには、医学博士、文学教授、高校、中学の教師のような学識者がいます。彼らは「おばさん、子供はどのようなふうにご教育すれば、どのような境遇にあつても、こんなにほがらかで素直で、親切な親思いでよく勉強する子になるのか、秘訣を教えてください」と言います。私は答えました。「私は子供を教える母ではありません。あなたがたのような学識はないのだから教えません。子供から学ぶ母ですから秘訣などありません。彼らの良さは、教会に行つて福音を学びそれを実行しているだけです。彼らの良さは教会から学んでいます。秘訣を私から学ぼうとしないで、教会に来て見て下さい。」人生には夜があり昼があるように、いつどのような境遇にあうかわかりません。でもどんな時にあつても、この教会の福音に従つて親も子も共に生きているならば、決して曲がることはないことを証します。

私は現在、一人で働いています。これもまだ若いので、もう少し働いて什分の一を出す喜びを味わいたいから、もう少し働かせてくれと、長男や嫁にお願いして働いています。1人で暮らすのに寂しくてはいけなと、長男はカラーテレビを買ってくれました。寒くなった時、嫁は「風邪をひいてはいけなと」ストーブを買ってきてくれます。テレビを見る時、こたつの中で見たり、勉強したりするのもいいことだと、こたつを買ってくれました。1人の息子は、寝る時冷たくてはと電気毛布を送ってくれます。ほんとうに子供たちは、愛を示してくれます。こういう素晴らしい子供に恵まれたことを神様に感謝しています。現在の喜びを、神様に感謝しています。私の現在あることは、この教会に来たおかげであると心から感謝しています。このせちがらい世の中で、私たち親は、どのようにして子供を育てようかという心配をもたずに、親も子も教会の中で生活するならば、いかなる世の中にあつても子供が曲がったり、親が心配することがないことを、私の身の上をもって証します。すべてイエス・キリストのみ名によってお話ししました。アーメン。

(1971年12月19日収録)

